

深井孫七郎「大坂店勤番日記」その二

——天明六・七年の大坂両替店——

前号に引き続き、本号では天明六年十一月一日から天明七年二月六日までの分を掲載する。

この期間の大坂両替店は、江戸、大坂、京都全店を包み込んだ大坂御用金の様な大問題を抱えることもなく、また天明七年五月の打ち毀しの危機感もまだ表面化しない時期である。しかし、前号で一石当り五〇匁台を保っていた米相場が天明六年七月末には六〇匁台となり、本号ではすでに八七匁を越して、ついには一一〇匁台まで上がっている。

本文史料の後に、この「深井孫七郎『大坂店勤番日記』」その一、その二を通して人名補注、および毎日付の下欄に付帳で記されている金、銭、為替打銀、米の各相場を一览しやすいよう数字に直して表にした。人名補注の内容はおおむね天明六年二月七日より翌七年二月六日現在のものである。相場表については、天明六年十一月以降の米の値段が日々、徐々に上がっていくのがわかる。天明七年二月六日以降の各相場については、大坂両替店

「日記録」(三井文庫所蔵史料本四六)を参照されたい。

なお、本文史料紹介「その一」において校正上の脱落個所があり、左の通り補充するので、あしからず御了承願いたい。

(天明六年二月十三日付) 三六四ページ下段左端および三六五ページ上段右端との間に左の三行が入る。

「右同町五歩」

表口貳拾二間貳尺

裏行十四間

右御同人御名前

元方持

(樋口知子)

凡例

一、漢字、仮名ともに現行の字体を用いた。

一、読みやすくするために読点を適宜につけた。欄外書は当該の条項の後へ※印をつけて「」で括り、右肩に(欄外)と注記した。

一、符帳は、できるだけ行間に実数を付したが、技術的に入れることが困難な個所は省いてある。使用されている付帳は左の二種類である。

一二三四五六七八九十百千貫匁分

イセマツサカエチウシ舟仙メ々入

曾野見江佐留所於戒敬

一、献立の中で「午尻」とあるのは「午房」のことであり、また「雑煎」とあるのは「雑煮」のことである。注記を入れる余白がないため、そのままにしてある。

〔表紙〕
「天明六年十一月朔日ヨリ
天明七年二月六日迄」

大坂店勤番日記

(別一五七一―二)

深井孫七郎

十一月朔日未天氣
冬至申三割
但二十年已前明和四年亥年ニ
冬至亥四割ト有之其前不考
金サシ、セマ入 星マツ入
丸打舟、舟セシト位
錢チ、ウ入ウ厘
肥後米チシエトセ入

一今朝御礼久次郎罷出例之通相勤ル

一当月御月番小田切土佐守様、御金方春田半十郎様、且下シ番十人組ニ而相勤ル

一落合権太夫殿手代杉本専助入来、御祓并新曆等持参ス

一阿部能登守様御屋敷江為対談今日久次郎致参上候処、島村新兵衛殿御事御陳屋江御越被成候付、猶又近日参上致対談候積リニ候

一村井新左衛門入来、西方寺和尚来春本山黒谷御忌当日之導師相勤被申候付、彼地ニ而之物入も多ク御座候付、諸旦那江右之趣致吹聴、本店、両替店其外江も可然申達呉候様相頼被申候間、宜取計遣呉候様申来リ候事

一規矩文兵衛儀、中西とな方相統之儀、先達而願之通御聞濟有之

候処、文兵衛病氣ニ付入家延引ニ相成有之由、此節者全快ニ付弥頼之品差送り申度旨為届、手代伊兵衛ヲ以申越候付、勝手次第取繕可申段、聞届遣候

一加賀屋次右衛門方家質滞銀、阿波屋伊兵衛名前ヲ以、当六月相願候処、伊兵衛致病死候付、右願御引上ケニ相成候付、此節当伊兵衛代判藤兵衛ヲ以改御願申上候付、願書并家質証文写等相認遣、明二日御番所江右藤兵衛為御願罷出申筈、店々庄助家質証文本紙持参付添罷出候積リ、依之右之趣伏見町会所并当人加賀屋次右衛門方へも申遣シ候之処、承知之段申越候付、弥明二日双方罷出候積リニ候

一今朝汁常之通 平人參 こもふ 小芹 繪花鹽 屋汁かふら 平ねぎ 焼物塩麴

夜食常之通 夜酒肴 白坂 いもてんか 但冬至ニ付焼物増 且 甘酒備 神棚荒神

一今般御代替御礼当朔日、二日、四日右三日之由江戸表申来ル

十一月二日晴天 金サシ、ツツサ入 星カエ入

丸打ウシ、舟シ、位
錢チ、ウ入イ厘
肥後米チシエトセ入

一佐々木左京殿丸亀江罷越候由ニ而、今朝当店江向出坂、一兩日逗留有度旨、且右之節先達而申込被置候親類内之子供深尾音五郎と申十二才ニ相成候者同道、猶又出勤之儀相願被申候付、何れも相談之上直ニ今日ハ出勤為致候

一 清藏様御儀、昨日於江戸表御元服被遊候付、右御歛狀江戸表江

老通、長次郎様江老通差上申候、尤清藏様御儀御在府中者長五郎様と御名乗被遊候付、其通相認差下申候、將又八助様御方江

南御倉様先達而御入家、昨日御婚禮首尾能御整被遊候付、南次郎右衛門様、小川八助様江御歛狀為差登申候、尤右何れも京都店より申来、猶又当地本店申合、御悦狀差上申候事

一 加賀屋次右衛門方家質滞銀元利シチメカ舟チ、セ入今日阿波屋

伊兵衛代藤兵衛東御役所江罷出御願申上候処、於御前例之通御裏印可被下旨被仰渡、則来月二日双方罷出候様之御裏印致頂戴罷歸り候、依之伏見町会所江庄助ニ為持遣請取書取置申候、委細之儀御用帳ニ留置、此所略之ヌ

一新田利平次今夕京都江罷登候由、為届入来

十一月三日天氣

金サシイ、マサ入、星イ、マ入
丸打ウシ、舟シ、位
錢チ、ウ入、サカ厘
肥後米ウシ、カ入

夕方々寒氣強

一 明後五日御為替渡り為伺今日久次郎罷出候処、仲間江二朱判曾

仙両、銀七舟ツシメ、御渡可被下旨、依之割合書後明書付、且

先月十八日江戸上納相濟候御納札老通共御月番江差上、御書替者上田組江持歸り申候

一 深井助九郎儀、大和江為判元松野手代伊兵衛同道、当店江向罷越、今朝着坂、即刻大和路江罷下り申候

十一月四日天氣

金サシイ、セマ入、星イ、マツ入
丸打舟、舟セシ、位
錢チ、ウ入、イセ厘
肥後米チシウ、サ入

寒氣強風吹

一 明日渡御為替証文今日久次郎持參、御月番江差上御書替

一 当町芋屋市右衛門死去ニ付、為悦半兵衛、藤次郎罷越候、尤葬礼今日八ツ半時於浜墓所相當被申候付、藤次郎罷出申候、半兵衛代も相兼、且喜三郎不快ニ付罷出不申候

十一月五日天氣

金サシイ、イ入、マ入、星チ入、イ、
丸打ウシ、舟シ、位
錢チ、チ入、ウ厘、ウ入
肥後米チシウ、也

寒氣強

一新町源右衛門様御方江竹屋町御式様御儀一昨二日就吉辰御入家

被遊候得共、御悦之儀者追而御弘之節御請被遊候間、其節右御両家様江御歛狀差上可申旨京都店より申来ル

一 今日御為替金銀為請取久次郎罷出、左之通

(五百)

式朱判サ舟両
銀舟チメサ舟、

手前

式朱判ツ舟兩
銀舟カメ、

十人組

(六百)

一 式朱判舟兩
銀セシサメ、サ舟、

式朱判イ仙両
銀セ舟ツシメ、

(二十貫目)

内小玉セシメ、上納来ル未二月六日

右之通無故障請取候付、例之通為御届夫々相廻り申候、尤先月

十八日江戸上納相濟候御納札引替も、今日無故障相濟申候

一上田方江御印取組銀舟(百五十貫目)サシメ、先月切二而有之候、家質銀も来ル末三月切二而舟サシメ、有之候処、右家質之方引当余程不足

二相見得申候付、先達而返濟又者元入兩様之催促致罷在候処、此度切月相廻り候御印之内江シメ、致元入、家質之方も来三月迄之内追々致元入候対談二而、先此度御印之方二而シメ、相減シ、改舟(百四十貫目)シメ之取組二相成申候

十一月六日天氣 金サシメウ入イ、昼同事 丸打ウシメ舟シメ位 寒氣強 錢チウ入ウ厘ウ入 肥後米チシチウ入

一中井敬順一周忌二付、為菓子銀子今日差送ル

一茨木屋庄右衛門死去二付、葬礼男頭徳兵衛差出ス

十一月七日天氣 金サシメイ入、星メチウ入 丸打ウシメ舟シメ位 同断 錢チウ入イ厘 肥後米チシチウ入

一佐々木左京殿今夕舟二讃州丸亀江罷下り被申候

一深井助九郎儀大和路判元相濟、昨日昼時帰坂、則夕舟二川原町

松野手代伊兵衛同舟帰京ス

一新田利平次此間京都并大津表江も罷越、今日致帰坂入来ス

十一月八日天氣 金サシメエチ入、昼同事 丸打ウシメ舟シメ位

錢チウ入セマ厘 肥後米休日

一京都店西田新四郎儀勝手二付、新町通六角上町西側江致変宅候段、別紙ヲ以申来ル、且右之節当地本店、兩替店懸り、別宅并家督退役中ニ至迄住居所書為差登候様申来候付、則夫々別紙ニ相認為差登申候

一鳥居幸七方亡父忌七日為志小豆一重店表江差出ス

一今夕当店寄会相勤、天王子屋(マ)弥次兵衛家質シサメ、之所三割通致用捨呉候ハ、元銀相濟可申、左無之候ハ、家引取呉候様申聞候付、一割通り致用捨可遣段及返答候処、不承知二付猶又今夕

及相談二割引遣し可申哉、何れニも家屋敷流込申儀望無之、依之右之趣京都店江も及相談可申旨申談、將又秋田万兵衛儀入道松甫久々致中絶、当店江參り不申候処、此度九郎右衛門様当店支配人中江御状被下、右之者店差支之筋無之候ハ、前々之通り出入為致候様被仰下候付、相札候処、全鉢店表出入差留候而者無之、先達而中井嘉平次と彼是申合之儀有之、其後自ら被參候儀二付、九郎右衛門様も右之通被仰下候旁差而之趣意も無之候付、改願ニも候ハ、出入為致可然旨相談相決、九郎右衛門様江も右之趣申上候、其外加州御屋敷御埒合一件、且又正金入替之儀及内談候

十一月九日天氣

金サシイ、イセ入、サ厘 星メチウ入
丸打チシ、イセ入、舟、位
錢チ、ウ入、セマ厘
肥後米チシ、エ、セ入

一新田弥助入來、銀子入用之儀申來候付、半兵衛、喜三郎立會取納何角之儀及相談候

十一月十日天氣

金サシイ、イセ入、サ厘 星同事
丸打チシ、イセ入、舟、位
錢チ、ウ入、マツ厘
肥後米チシ、エ、セ入

一森繁平殿御増預金野舟兩、利足年セ歩之儀致対談、則返答之趣
今夕久次郎、寺井瀬兵衛江別紙ヲ以及通達候

一阿部様先月御返済金ツ舟兩為催促今日御屋敷江久次郎參上、島村新兵衛殿江懸御目押合候処、御屋敷御難波而已御申双、何分來年迄致延引呉候様被仰聞候付、右之趣今夕京都店江本状、委細及通達候

一上田蔵方名代水谷武右衛門死去、今日八ツ時長柄於鶴満寺葬式有之候付、店、代藤次郎、且杉本久次郎も罷越候

一紙屋次兵衛方、正金イ仙兩末二月切ニ預り、代り銀ツシエ、利足月千朱ニ而返済之積貸遣ス、但町内芋屋弥一郎口入也

十一月十一日昨夜八ツ半、雨降今四ツ止

金サシイ、イセ入、サ厘 星イ、イ入
丸打チシ、イセ入、ウ、位
錢チ、ウ入、マツ厘
肥後米チシ、エ、セ入
夫、儀天

一牧野平左衛門殿江加州御屋敷當年御塚合之儀ニ付、久次郎今日罷越引合方之儀何角及面談候、且右之節養子入家被致候段吹聴有之候

一油小路北御善様御儀、当夏中立亮三郎助様江戸表御下向為御暇乞御出被遊、其後御帰リ不被遊候付、油小路ハ御帰リ被遊候様度々被仰遣候得共、御不承知ニ付、夫、宗巴様、八郎兵衛様御直之御引合も有之、於元方別宅中惣寄合も有之候而種々御評儀御座候而、此度御双方様御納得之上誠美敷御離縁被遊候、尤右之御仕義合旁以來者是迄も御睦敷被遊候間、右之趣相心得可申旨、昨十日出ヲ以京都向崎吉郎兵衛、丸山弥兵衛、爰元奥村次右衛門、当店勤番深井孫七郎宛元方状致到来、則書面本店庄右衛門被致持參、孫七郎一覽之上、右返書於本店相認為差登被申候

一右之節本店庄右衛門被申聞候者、福田丹藏儀、先達而御届申置候通、不行跡ニ付本店出入并文通共相止罷在候、然ル処其後連も相直リ不申益不行跡相券候付、弥先達而御届申置候通り、此度者表向ニ而申渡候間、此段相心得呉候様被申聞候付、承知之旨則答申置候

十一月十二日天気

暮半時地震

今曉七ツ時ノ風吹

金サシシイイセ入入 星イハサ厘イ入
丸打カシシハカチシシ位
錢チウ入カエ厘
肥後米チシカカ入

天明六年午十一月

右御兩人宛

越後屋安次郎代
平三郎印

右之通請取書両通ニ相認、具足屋江持参、銀子請取申候

十一月十三日曇天

風立寒氣強

金サシシイイセ入入 星同事
丸打マシシハカチシシ位
錢チウ入マツツ入
肥後米チシカカ入

一加州御屋敷江今朝久次郎参上、当年御渡方之儀御催促申上候処、先達而御改法御儀定之通御為替之方年セセ歩之御利足、質米之方八年イイ歩サ之御利足弥御渡被成候段被仰聞、則右之積ヲ以今日御藏元具足屋方ニ而銀子請取申候

覚

一五貫三百式匁

文丁銀

〔右斜書〕
〔御為替方〕

但天明三卯年十一月御元入銀引残、元銀貳百六拾五貫百目

年式歩之御利足壹ケ年御渡高

右者私ハ差上置候銀子御改法ニ付、当年御利足銀御渡被成

請取申所仍如件

天明六年午十一月

杉本久次郎印

小寺武兵衛殿

笠間九兵衛殿

覚

一拾三貫八百壹匁分壹厘

文丁銀

〔右斜書〕
〔質米之方〕

但天明三卯年十一月御元入銀引残、元銀九百貳拾貫七拾四

匁式分、年壹歩半之御利足壹ケ年御渡高

右者私ハ差上置候銀子御改法ニ付、当年御利足銀御渡被成請

取申所仍如件

一勢州一融様御儀、今般宗融様と御改名被遊候段、京都ハ別紙ヲ以申来り候、依之御款状差上申候事、且又宗龍様御方御西様御被初御祝儀十六日御悅被遊候間、是又本店申合御悅状為差登可申旨来り候

一前田新太郎父方祖母积妙守五十回忌為志芥子餅一重今日致到来候、尤祥当今月十六日也

一西御組勝部丈右衛門殿、成瀬九郎左衛門殿、河方勘兵衛殿事願ニ付御役御免被仰付、跡御役替左之通

一寺社方江

田坂直右衛門殿

二寺社方助役

吉田勝右衛門殿

三地方助役

安東丈之助殿

四御金方江

吉田三郎助殿

五目安方本役

勝部弥十郎殿

六目安方助役

葛山龜右衛門殿

七火事方

安井大助殿

八御勘定方

永田兆十郎殿

七牢扶持方

三宅十郎右衛門殿

八御勘定方

小川甚五右衛門殿

九盜賊方

杉浦兵左衛門殿

八御勘定方

服部平右衛門殿

御石方

成瀬正兵衛殿

十流人方

服部平右衛門殿

右之通被仰付候段、下宿大和屋庄兵衛方を為相知候

一 牧野平左衛門殿江小泉忠兵衛殿甥養子被致、則両御頭様江御目通りも相濟候段御吹聴ニ付、為祝儀鏝節一連金サ舟疋今日差送り、猶又為御悦罷越候

十一月十四日天氣

風立寒氣強
金サシノトイセ入 屋マツ入
丸打マシノトイセ入 位
錢チノチ入ウ厘ウ入
肥後米チシサトチ入

一 明後十六日御為替銀為伺今日久次郎罷出候处、仲間江銀舟(百貫目)御渡可被成旨被仰聞候付、則割合書付并後明書、且又先月廿六日江戸上納相濟候御納札式通共御月番江差上、御書替者手前江持帰り申候

一 右之節御為替増銀之儀猶又相願候处、此節御收納無數御増渡難被成候得共猶致勘弁、来ル廿三日少々成共相増候様御取計可被成段被仰聞候付、猶又御願申上置候

一 先達而家質齋主伏見町加賀屋次右衛門儀致病死候ニ付、今日御番所江御届申上候間、手前も立会呉候様町内へ申越候付、則喜三郎代藤次郎西御番所江罷出候之処、於目安方次右衛門致死去候付願付之分御引上ニ相成候間、名跡人相極候ハ、可申出旨被仰渡候、且今一口阿波屋伊兵衛代藤兵衛東御番所懸リニ付町内一所ニ罷出候处、是又於目安方追而名跡人相極候上改御願可申上旨被仰渡候、尤御裏印之訴状者伏見町直ニ致返上候、右

之節伏見町々内之者并加賀屋手代申聞候者右一件当人致死去候得は、猶内談之上何卒下濟ニも致度旨申罷在候

十一月十五日天氣

寒氣強
但月帶食今卯八刻
辰一刻一分半かけながら
金サシノトイセ入 屋ツサ入
丸打セシサノトイセ入 位
錢チノチ入マツ屋
肥後米チシサトチ入

一 今朝御礼久次郎罷出候、相勤申候、但後明院殿御法事於天王寺御執行有之由、依之申上置明日渡御為替証文今日久次郎御月番江持参差上、御書替者手前江持帰り申候

一 今朝料理朝常之通、

屋小調塩焼 汁かふら才 夜酒肴 玉子ふの焼 鰯汁 ぶきてんかく

一 江戸当月六日出正金七仙両、今四ツ時無難到着ス

一 道修町荅町目薬種商売奈良屋藤兵衛居宅引当ニ取之、御印銀(四十四貫目)シメ、利足チサ来ル四月切ニ而新取組出来、則今日取引相濟、尤町年寄與印至極丈夫候也

一 当月十日丑中刻過々江戸市ケ谷本村尾州様御上屋敷御殿向焼失、明六ツ時火鎮り申候由、尤御殿向計之由飛脚を知ス

一 先月廿六日江戸上納銀拾壹貫五百目之御納札少々黒付有之御差支御座候付、御断書久次郎を差上置申候

一 当店子供玉村熊次郎病氣ニ付、今夕も宿元江引取致養生候

十一月十六日天気 金サシ、マツ入、昼同事
寒気強 丸打セシ、マツシ、位
肥後米休日 肥後米休日
但今戌八刻寒入也

一 今日御為替銀為請取久次郎罷出左之通

一 銀(四十三貫五百目)ツシママサ舟、十人組
一 銀(四十六貫目)ツシカマ、手前 一 銀(十貫五百目)ツシマサ舟、上田組

一 銀(百貫目)舟、内小玉シ、上納来末二月十八日

右之通無故障請取申候付、例之通為御届夫々相廻り候、尤先月

廿六日江戸上納相濟候御納札両通引替も相濟申候

一 今夕寒入二付、今昼せんさい餅 平倉橋大根 汁常之通

十一月十七日天気 金サシ、ウ入、昼サシ、カエ入
丸打ウシ、舟シ、位

錢チ、チ入ウ厘ウ入
肥後米チシカカ也

一 御酉様御被初御悅状宗龍様宛認今夕為差登申候

十一月十八日天気 金サシ、エ入、ウ入、昼同事
寒気強 丸打舟、舟シ、位

錢チ、ウ入イセ厘
肥後米チシカカ也

一 高池三郎兵衛入来、土岐様御家中桜井伝右衛門殿御事、此度五
十石加増御年寄役被仰付罷登被申候、尤用向者関東井上方御領
分共洪水風破損、其上殿様御代替等二而御物入多ク、当暮御差

支之由ニ而上方金主江金高(四千)ツ仙兩御頼被成度候間、先鴻池方拙
者、内談致置候様、先達而申来り候付、同所江追々及内談候
処、マ仙兩位出金可有之趣ニ相聞得申候、左候時は殘金イ仙兩(二百)

ヲ四五軒の金主方江御頼可被成と奉存候得は、格別之金高二て
も無之候、御家も御頼可被成候条随分御出金可被遣、尤
右者御当用之儀ニ付御返濟方別段年限御定随分早ク御返濟被成

候御工面之由相咄被申候付、何卒手前方御用捨相成間敷哉之段
此方難渋申断申取候処、皆無之御断者宜ケル間敷存候得共、
前件之通鴻池方ニてマ仙も致出来候得は舟敷七舟御調達被成候

而も相濟可申積奉存候、定而廿一、二日頃ニは着坂可有之候条、
猶又差含及挨拶置旨可申旨被申聞候付、何分宜御断御申入可被
下段相頼置申候

一 江戸店、当月八日出為登金イ仙チ舟兩今日無難致着候

一 尼崎松平遠江守様御用人関六郎左衛門殿、外谷郷左衛門殿御出

坂ニ付、店表江御入来、井口孫兵衛江宜申入候様御申置、猶又

御酒五升一樽、饗節二連致到来候、右御屋敷孫兵衛死去ニ付、半

兵衛名前二相改可申旨、此間口入之者江申入候処、今年者最早

諸証文御取調へ相濟候付、明年、相改可申段申聞候、依之今年

所者矢張孫兵衛名前二而相濟候

一本店中西庄右衛門殿初其外店掛り之寒氣為見舞入来、且江戸飛
脚江戸屋源右衛門、為見舞鷹一羽到来ス

十一月十九日天氣

金サシ、カチ入、屋サシ、マサ入
丸打舟、ウ入、也、位
錢チ、ウ入、也
肥後米チシエ、マサ入

一 京都兩御役所御入用銀三拾貫目、來ル廿三日当地御金藏、御請

取被成候付、右請取方例之通手前江京都於御役所被仰付、則右

御証文本紙并写御添簡等相渡り候付、昨夕舟二京店出入男吉兵

衛、藤兵衛ニ為持差下シ被申、無難今朝着、右御証文并写御添

簡等請取申候、右京都店出入兩人者直ニ今夕舟ニ帰京ス

一 御兩殿并御家中御金方天満与力衆江寒中為御見舞今日久次郎罷

出申候、尤文次郎不快ニ付、不罷出候

一 阿部能登守様、土岐美濃守様御屋敷江同断為御見舞今日久次郎

罷出候

一 津久井武兵衛寒中為御尋店表江入來、京都江も宜為申登呉候様

御申置被成候

一 江戸店、当月十四日出本五日切書狀今酉刻前致到着候処、御為

替増渡之儀於彼地申込候処、來ル廿三日、來春江懸ケセ舟、
(二百貫目)

宛之積り、尤十二月渡之内一建位者当地御金方御繰合次第マ
(三百貫目)

舟、渡リニ可被成下旨之御添簡申請為差登候付、即刻右御書
平三郎ニ為持遣、猶又明朝久次郎御金方江罷越御願申上候積り
ニ候、依之右之趣京都店へも及通達候

十一月廿日天氣

金サシ、ウ入、イ、屋同手
丸打舟、ウ入、マツ厘
錢チ、ウ入、也
肥後米休日

一 今日御金方江増渡り之儀為同久次郎罷出、吉野勝之助殿江懸御

目相尋候処、來ル廿三日セ舟、
(二百貫目)

來月マ舟、
(三百貫目)

來春江懸ケセ舟、宛御渡可被下旨被仰渡候、右冬分、春頃迄

セ舟、宛御渡可被下候、何卒可相成候ハ、当冬分江御繰越
(三百貫目)

マ舟、渡シ被成下候様仕度段相願候処、御繰合は相成候様子

ニ候得共、江戸表、宛と御下知御座候ニ付、於当地春

渡リヲ冬江御繰越之儀御取計難被成趣御申聞被成候付、右之趣

猶又江戸店、京都江も及通達候

一 秋田万兵衛事松甫当店出入差免候付、右御札請書等今日被持參

候付、猶又喜三郎及面会候

十一月廿一日天氣

金サシ、イ、入、屋、イ、マサ入
丸打舟、ウ入、工、位
錢チ、ウ入、也
肥後米チシカ、也

一 明後廿三日御為替渡為同猶又今日久次郎罷出候処、仲間江定式

之方銀セ舟、
(二百貫目)

且清水御收納銀カシ、御渡可被下旨被仰渡

候付、則割合書并後明書、將又当月六日江戸上納相濟候御納札
尅通御月番江差上、御書替者十人組方江持帰り申候
一本店支配人、当店支配人江手紙到來、奥村次右衛門剃髮願之通

御聞濟御座候付、昨廿日致剃髮、貞山と致改名并子息丈助儀次右衛門と致変名候由、右弘之儀は来月朔日、二日兩日ニ熨斗昆布ニ而相祝被申候段為相知来り候付、猶又本店江相尋申候処、

右丈助儀は内々致養子ニ被置候由ニ而未京都江之届も無之候付、今夕右之趣京都江通達有之旨、將又右祝物之儀近来一統相止ミ有之候得共、役柄之者ニ候間、此度者元方并店々々も可被下置

段申来り候由、尤家督人者忠右衛門ニ而、丈助儀は次男相建申候旨本店ニ而内々相咄被申候、依之右之趣京都店江為申登祝物等之儀尋合申候、且前件之次第当店掛り家督并退役中江も相知せ、猶又江戸店江も及通達候

一道明寺役人木戸与左衛門儀江戸表納経拜礼無故障相濟、去ル六日江戸出立道中無難今朝致着候由ニ而入来、尤江戸表逗留中彼是御世話罷成、其上彼地出立之節は御餞別等被下之忝奉存候、何分宜申遣具候様被申參候

一松坂宗惠様御儀、当春頃御声渴ク御痰症之御様子ニ而御座候処、此節寒氣強、別而御勝レ不被遊候付、彼是御医師方御伝被遊余程御六ヶ敷御様子之段、松坂店元方江御通達有之、右状面写京都店も爰元へも下り申候、然レ共御見舞状ニ者不及申候段申来り候付、差下不申候

一京都兩御役所御請取銀三拾貫目、来ル廿三日御請取被成候御証文之写一通、今日御金方久次郎持參、御月番江御案内申上置候

一撰州吳田吉田喜平次方江安治川抱屋敷式ケ所引当ニ取之、銀高(三十貫目)マシメ、利足月チ朱、且無引当ニ而銀高(三十貫目)マシメ、利足チ朱サ右(八)両口共御印ニ而来ル未五月切ニ取組申候

一舟間屋高津屋幸七方江富島一丁目居宅并古川一丁目掛屋敷引当ニ取之、銀高(十五貫目)シサメ、利足ウ朱来未六月切ニ取組申候、吳田喜平次者勿論高津屋共随分丈夫口也

十一月廿二日天氣
金サシイ、エチ入 昼サエ入
丸打カチシ、位
錢チ、ウ入マツ厘
肥後米チシエ、也

一明日渡御為替証文并京都御役所御請取銀御証文、今日御金方江久次郎持參御月番江差上、御書替八十人組江持帰り申候

一鳥井幸七着船ニ付入来、田牧市右衛門、江戸屋源右衛門寒中為見舞入来ス

一今夜亥之刻梅檀木筋南本町南横町東側へ出火、即刻西側江火移り唐物町北側兩角へ南本町兩角迄不殘燒、凡東西三十間、南北四拾間計燒失、丑ノ刻時火鎮り申候

十一月廿三日天氣
金サシイ、ムサ厘 昼イセ入
丸打ツカシ、位
錢チ、ウ入セマ厘
肥後米チシエ、セ入

一今日御為替銀并京都御役所御請取銀等為請取久次郎罷出、左之

通

一銀(九十二貫五百目) 手前 一銀(八十六貫五百目) 十人組

一銀ウシセメサ舟、 一銀(二十貫目) 上田組

一銀(二百貫目) 内小玉セシメ、 上納来末二月廿六日

右者定式之方 (二十八貫目) 手前 一銀(二十五貫目) 十人組

一銀セシチメ、 一銀(七貫目) 上田組

メ銀(六十貫目) 小玉なし 上納右同日

右者清水御收納之方 (三十貫目) 京都兩御役所御請取銀

右之通無故障請取申候付、例之通夫々為御届罷越申候、尤当月

六日江戸上納相濟候御納札引替も相濟申候

一次郎右衛門様御儀江戸表御帰京并寒中御見舞御兼被遊、今昼

舟二御下向、今暮時過舟中御機嫌能御着坂被遊候、御供寺田十

太郎并下男等無難致着坂候

一右御着坂為御悦本店々中西庄右衛門、支配人奥田吉太郎、組頭

役片山儀兵衛入来ス

十一月廿四日 金サシイ、セ入サ厘 昼サシ、エチ入

丸打カチシ、位 錢チ、ウ入マツ厘 肥後米休日

一土岐様御家中桜井伝右衛門殿御用向ニ付御出坂為御土産左之通

八郎右衛門様江 一御菓子盆五枚箱入 一浅草海苔十枚 一御狀熨斗包添 一御狀熨斗包添 深井孫七郎江

右之通御足輕一人、中間一人ニ為持被遣候付、請取書認遣、右

之趣本状々及通達御状品共為差登申候、尤伝右衛門殿御事追而

上京有之候段、右使之衆且高池も及承申候

一今日寄会相勤、本店々中西庄右衛門、支配人奥田吉太郎、組頭

近藤三右衛門致出席候 (機脱) 一右寄会江次郎右衛門御出坂御出席被遊、左之通

一 大坂兩替店 是迄頭 矢野庄次郎

(此度組頭格被仰付候)の記事脱

右之通結構被仰渡難有奉存候、依之右之趣京、江戸、松坂江之元

方御状并京、江戸店江本状ヲ以及通達候、且京都、江戸、松坂主中

様方并店々江庄次郎御礼状夫々差上申候、將又当地店掛り、

家督并退役中、新田役人江も為相知遣候、尤本店掛りは本店も為

相知被申候、右之節料理 汁 竹輪とうふ 茶碗蒸粟 ねいも 焼

物細切身 酒肴 硯蓋くたさす 但金色ニ而右茶碗蒸汁持出ル

一今初夜半頃当店門口江出生四十日計二相成候男子捨有之候付、

即刻町内江相届、御番所江当店家守小野藤次郎、年寄病氣二付

月行事油屋四郎兵衛、町代付添御届申上候处、御聞置被遊候間、致養育遣、追而外方遣候ハ、其節又々御断可申上段被仰渡候、依之右捨子尼ケ崎町并池北江入町并筒屋平次郎借屋并筒屋新七と申者江下役長藏世話ニ而預ケ置申候

一 当月廿二日紀州の御国御幸領衆兩人付添、皆金^(三)マ仙兩為御登被遊候付例之通元ノ衆宛請取書差出、右金高請取置、即夕京都店江右之趣申遣候処、右金高之内今夕金セ仙兩、明夕金曾仙兩天満屋飛脚^(二)為差登可申旨申来り候付、則天満屋江相渡為差登申候

十一月廿五日天氣 金サシイ、サカ入 星マサ入

丸打カチシ、位
錢チ、ウ入サエ屋
肥後米チシチ、也

一 道明寺江代參無人ニ付、横町与兵衛ニ御初穂例月之通銀^(一)イ兩為持代參為致候

一 矢野庄次郎御役入御礼本店并両店掛り当役、宅々江相廻り申候、其外家督并退役江も為挨拶罷越申候

一 次郎右衛門様御儀、今日御城代様、兩御奉行様并御家中、御金奉行様方、且天満与力衆、御金方同心衆、笠間御屋敷、高崎御屋敷、上田方等江戸御帰京御届、寒中見舞御兼夫々御勤被遊候、尤御上ケ物者定式之通、且御城代様并村田万大夫殿は先達而江戸御下向之節御餞別御座候ニ付、定式之外御音物有之、將又御城代様御家中江是迄者一統江戸御土産無之候処、此已来三郎助様初御格式被蒙仰御上京之節為御届御下向被遊候砌、右御家中方御勤先一統江胸紐五掛或者三掛、御家老方江は着添差送り有之候付、此度右之品改江戸御土産として差送り申候

一 土岐様御屋敷ノ御使者川村伴右衛門殿并中間三人店表江入来、

殿様御儀今般御家督被為蒙仰、為御祝儀左之通
一 千鯛一箱 八郎右衛門様江 一金七舟疋 ^(三)
金子三百疋 深井孫七郎江
但堅目錄添

右之通御意之趣ヲ以被下置候付、京都江為差登、本状及通達御札状御使者江之溜メ等之儀も為申登候

一 阿部様御家中岡孫右衛門殿、原田五左衛門殿ノ次郎右衛門様江手紙到来、明廿六日用人共可懸御目候間、昼時頃勘定所江御出被成候様私共ノ可得御意旨申聞候段被仰下候付、次郎右衛門儀京都用向有之候付、先刻乗舟帰京仕候旨、久次郎參上取繕御断申上候、尤島村新兵衛殿も同様申来り候付、是又程克取繕御断申上候

一 渡部新三郎入来、中西とな方内婚礼来月四日相整申積りニ御座候、尤弘メ之儀者来春相務申度旨為届入来

一 次郎右衛門様御儀当地御用向相済、今夕舟ニ御帰京被遊候、依之本店ノ為御暇乞中西庄右衛門、支配人武右衛門、組頭三右衛門入来ス

十一月廿六日小雨降 金サシイ、サカ入 星同事

丸打カチシ、位
錢チ、ウ入サエ屋
肥後米チシチ、ツ入

一 奥村次右衛門儀剃髮、貞山と改名、来月朔日、二日七十賀并剃髮弘メ相整被申候段、本店ノ申来ル、依之当店懸り之衆中江右之

趣為相知遣し候

一次郎右衛門様御儀、明廿七日京都御屋敷方江御帰京御届御出勤被遊候付、御土産物左之通

御兩殿江 甘鯛五枚宛

北御用人四人
兩御家中十二人

生半開
金京魚五枚宛

右之通今夕舟ニ爰元出入弥七ニ為持為差登申候、尤右之趣別紙ヲ以委細為申登申候

十一月廿七日曇天

金サシイ、サ入サ厘 昼カ入サ厘
丸打カチシ、位
錢テ、ウ入カエ厘
肥後米休日

一土岐様御家中桜井伝右衛門殿御事、御用向ニ付御出坂之由ニ而入来、尤来月中頃御帰府之段被仰置候事

一右御屋敷久次郎呼来り候付、則致參候処、当月十八日高池三郎兵衛内々申聞候趣、猶又御申双ツ仙両之内マ仙兩鴻地江御頼、
殘金曾仙兩之内手前江マ舟兩も御頼被成度候得共、詰ル所セ舟
兩殿舟サシ兩者是非致調達具候様、尤利足エ朱五ヶ年賦御返済

之積り、右之趣伝右衛門殿御上京御頼可被成処、短日之砌何角御繁用ニ付、得御出京不被成候間、何分京都江宜為申登具候様、尤右之通致出金具候ハ、当暮年賦者無相違御渡可被成旨被仰聞候

一右之節高池三郎兵衛内々申聞候者、御家督老之助様未御幼年ニ付、沼田御交代無御座、其外万事御儉約被成候得は、一ヶ年ニ

(二千) イ仙兩宛者御物入相減シ候付、五ヶ年之間ニ者急度無御相違御返済致出来候段相咄申候付、右等之趣、且桜井氏此度御役替御加増祝物權代銀野杖ニ鏢節一連八郎右衛門様、鏢節一連孫七郎、差送り可申哉、將又土岐様、阿部様御屋敷孫七郎勅方引申儀、此節御懸合中八郎右衛門様度々御文通御座候付、此砌被仰込可然哉之段等今夕京都店江本状委細及通達候

一 当月廿二日夜九ツ半時、芝宇田川町東側裏町二、三十軒程焼、夫々東江焼出新錢座家數二、三十軒程焼、八ツ半時火鎮り申候由、尤芝口店、南江五、六町程隔風脇ニ而之候旨、増上寺御浜程近ニ有之候由、江戸屋源右衛門方、為相知候

一 上田三郎左衛門殿、此間次郎右衛門様御出被遊候為挨拶入来

十一月廿八日 天氣

金サシセ、セ入 昼イ、ウ入セ、
丸打カチシ、位
錢ウ、マ厘
肥後米チシ、イ入

一 当月切山本三次郎、三太郎銀セシメ、歩合エサ之口来未五月切二置居、且鉄質チシメ、歩合エサ川崎屋八三郎置守、来未二月迄置延遣ス

一 今治方池田屋吉兵衛、河内屋伝兵衛、鴻池屋六兵衛、深江屋惣左衛門江御印取組、銀ツシメ、且今治方之貸シメ、共此度

対談之上請取、右之外加入方者其儘差置申候事

一新田方貸当春改対談之通、年賦銀今日相納、尤自分貸之方も同

様請取候事

一 今日店荒神祭ニ付、昼汁天王寺、焼物生干金京魚塩焼

十一月廿九日天気

金サシセトイセ入 昼セトサエ入
丸打サエシト位
錢チウ入チウ厘ウ、
肥後米チシウトセ入

一 亀屋伊兵衛名前米平口正金曾(二千)仙兩入替当月切ニ有之候付、対談
之通銀サシメ(五百目)今日請取、正金曾仙兩差戻シ差引無之候付、証
文取遣等相済申候

一 残蠟(二十一貫七十五匁七分九)松切代銀セシイメエシサトエ入ウ厘、当十八日請取相済候、

右蠟最初ト売損銀高ウシツメ舟カシイ、エ入ウ厘之内マシウ(三十九貫八百目)、京都店引請ニ相成、残りサシツメマ舟カシイ、エ入ウ厘者大坂両替店要銀ニ而引捨、蠟方差引此度本帳消合相済申候

一 阿部様御用人村田万太夫殿ト八郎右衛門様、次郎右衛門様、元
之助様江御状相添、例年之通寒中為御尋蕎麥粉一箱、名代孫七郎江も同式袋京都奥田店ト相届候由、右御札御状本状ト下り申候付、即刻相届申候

一 土岐様御家督御祝儀被下置候御札状、八郎右衛門様ト江戸御家
老三入宛白米御状箱一ツ、孫七郎ト桜井伝右衛門殿宛書状壹通
下し候付、当地御屋敷江相頼、桜井氏江之書状は此節在坂ニ付
相届御使者川村伴右衛門殿江溜メ銀イ両、若党江セト、仲間式
人江鳥目舟文宛半紙添遣ス

一 加州当年御塚合相済候付、牧野平左衛門殿江龍文絹言疋、生肴
相添差送り、猶又久次郎為御礼罷越候

十二月朔日雨天

金サシマトセ入 昼マトサチ入
丸打サエシト位
錢ウマ厘
肥後米休日

一 今朝御屋敷方御礼久次郎相勤候、文次郎儀不快ニ付罷出候
一 当月御月番佐野備後守様御金方三浦藤左衛門様并下シ番手前ニ
而相勤ル

一 奥村貞山七十賀并剃髮弘今明日相整候付、五ヶ所ト之祝物差送
り、為悦孫七郎、半兵衛、久次郎罷越候

一 牧野平左衛門殿ト久次郎、文次郎江寒中為御尋生肴兩種一籠手
紙相添致到来候付、御礼答認遣、猶又為御礼罷越候
一 桜井伝右衛門殿今般御中老御加増被蒙仰候祝物左之通
一 御機代銀七枚 八郎右衛門様ト
一 饗節一連 深井孫七郎ト
右之通此節御出坂ニ付、於当地八郎右衛門様并孫七郎書状相添
差送り申候

一 今朝汁常之通

人參 平こもふ 屋汁とうふ 小才 焼物金京魚
いも 煮み

一 当地菓種屋仲間例年十一月晦日仕切候処、菓種并沙糖類大下り
ニ相成、身上差支候分当地井所々ニ而凡左之通
夜酒肴海老鬼焼
吹田かき 吹田かき
淡路町二丁目 瓦町一丁目 淡路町一丁目
鍵屋孫兵衛 伏見屋太兵衛 和泉屋惣七

内談路町派

道修町一丁目

本廻町

池田屋三郎兵衛 奈良屋藤兵衛

平野屋半兵衛

平野町一丁目

河内屋仁右衛門

大和屋弥兵衛

道修町一丁目

奈良屋忠兵衛

日野屋代助

内談路町

和泉屋六三郎

池田屋嘉兵衛

平野町一丁目

上野屋代助

池田屋宇右衛門

奈良屋藤兵衛

方御印取組有之候付

右之拾四軒者問屋之由、但奈良屋藤兵衛方御印取組有之候付
早速及対談罷在候

一右之外道修町辺ニ小店之者数多有之候得共、委ク名前相知レ不
申候、尤江戸表二十四五軒、京都ニ而三条室町鍵屋弥兵衛、井
筒屋伊右衛門但二条辺丸大別家手代之由、堺材木町醉屋久左衛
門其外名護屋ニ拾軒計有之候旨ニ候

十二月二日天氣

金サシマ、サエ入 屋ツサ入
丸打マサシ、位
銭ウ、セマ屋
肥後米ウシイ、也

一御所司様御組筆墨紙其外諸入用銀七百九拾九匁五分、三輪市十
郎様御役所右同断、銀六百目右御証文両通并写両通御添簡等本
状并御書番状通達ヲ以京店出入喜十郎、甚兵衛持下り、今朝着
改請取申候、尤右両口銀高来ル五日当地御金藏ヲ御請取之御証
文也

一京都ノ元方状奥村貞山、深井孫七郎宛致到着候処、松紀来状之
写

一大殿様御儀当月七日御剃髮被遊、太真様と御改被為遊候段

同十日御触通在之候

一当廿日御触通之趣左之通

大殿様御名文字と同文字相認候名之面々名相改候儀者勿論之
事ニ候、夫ニ付名之上ニ而も下ニ而も、太之字計附有之筋者
名相改候筈、名之上ニ而も下ニ而も太郎と続候筋は名相改候
ニ不及候、太夫と続候筋も改ルニ不及候、たとへは太兵衛、
太左衛門、左源太、右源太抔と申筋は相改候筈ニ候、太郎左
衛門、太郎助、何太郎抔と申筋、又ハ何太夫と申筋ハ名改ル
ニ不及筈、シント唱候名ニ而も御名文字と違候筋ハ是又改ル
ニ不及筈

右之通御通有之候間、此段宜被仰上可被下候

一右之通申来り候付、当地御宅々井店々当役人中右御名、同文
字之分ハ右之御趣ヲ以早々致改名候様主中様方ノ被仰付候而、
則廻文差出し候儀ニ御座候、依之其御地店々当役人中迎も右
御触通りニ相当り候名文字之分ハ早々改名可被成候、此旨拙
者共ノ御通達得其意候様被仰付如斯御座候

十一月廿九日

右之通京元方名代已上木村忠兵衛連名ヲ以奥村貞山、深井孫七
郎宛ニ而申来候付、則本店ノ中西庄右衛門持参、孫七郎一覽之
上写置、尤右返事は於本店相認差登ス

一三郎助様御方御善様御儀、今般御里楚様と御改名被遊候段、京
都店ノ別紙ヲ以申来り候

一丸山弥兵衛ノ例年之通寒中為見舞生鱒五尾今日当店江到来ス

一土岐様新調達金之儀、京都江先月廿七日所ニ扣有之候通及通達候処、時節柄御断も被仰度思召候得共、無御処御頼候間、当暮年賦御渡方相違無御座候様御儀定申上、金高舟(百)両御請可申旨申来り候付、今日右御屋敷江久次郎参上、何角取締右之趣御返答申上候処、先以舟(金之)御出金可被下段大慶存候、乍然当時金相庭下直旁舟金ニテハ差繰難致候間、是非舟サシ金御頼申度候、其元江当暮御渡可申年賦凡(百五)ツメサ舟(百五)程ニ候、当时之金相場二而右ヲ差引申候得は、漸カエ舟(六七百)之手取ニ相成、夫ニ而は甚手操難致候条何分舟サシ而致調達呉候様被仰聞候付、猶又高池へも右之高ニ而相濟候様挨拶致被呉候様相頼候処、先今日は御引取可被成候、今一応相考桜井氏江も致内談候而自是又々可得御意候申聞候付、何分宜御申入給ル様相頼罷帰り候

十二月三日天氣

金サシマハイセ入 昼同事
丸打マサシ位
銭ウエチ厘
肥後米ウシイムツ入

一明後五日御為替銀為伺久次郎罷出候処、仲間江(三百貫目)舟サシ御渡可被下筈、則割合書、後明書并京都筆墨紙諸入用御請取御証文之写等御月番江差上置申候
一土岐様御屋敷ハ八郎右衛門様江寒中為御尋中村八郎左衛門殿、渡辺庄左衛門殿、秋田善左衛門殿御状相添、鴨一(御)御到來被遊候(虫)右品京都江為差登、本状(虫)及通達候、尤御(供)足輕一

人、中間一人之段も申遣候

一奥村貞山七十賀剃髮名前譲り替弘替等無故障相整、祝物等差送り候為御礼、悴忠右衛門、次右衛門入来ス

一京本店上島太郎兵衛儀、今般七郎兵衛と致改名候旨京店ハ別紙ヲ以申来ル

一喜多川儀四郎殿并鳥居幸七、秋田松甫寒中為見舞入来、尤儀四郎殿二者京都御主人方名代中へも何分宜為申登呉候様、訳而御申置被成候

十二月四日天氣

金サシマハセツ入 昼同事
丸打マサシ位
銭ウエチ厘
肥後米ウシイムツ入

一明日渡御為替証文并京都御役所筆墨紙御請取御証文而通共御月番江久次郎持参差上、御書替者手前、上田両方江罷帰り申候
一土岐様前件御用達金之儀、高池氏江も相頼色々御断申上候得共、外方江御頼用達被申候振合等御申双、何分ニも舟サシ(百五)致調達呉候様混(御)頼ニ付、今夕右之趣京都店江本状ヲ以猶又及通達候、尤(桜井)氏来ル十一日頃出立御帰府之御積り之由ニ付、其段も申遣御餞別之儀相尋遣候

十二月五日曇天

金サシマハツカ入 昼チ入ムツ
丸打マサシ位
銭ウエチ厘
肥後米ウシイムツ也
折々小雨降星時晴

一今日御為替銀為請取久次郎罷出左之通

(百三十貫目)

十人組

一銀舟マシチメサ舟、手前

(百三十一貫五百目)

上田組

一銀マシイメサ舟、

(三十貫目)

右之外京都御役所筆墨紙代銀エ舟ウシウ、サ入、右同断

(七百九十九匁五分)

銀カ舟、三輪様分共

(六百匁)

右之通無故障請取候付、例之通為御届夫々相廻り申候、尤京都御役所御請取銀之儀は本状及通達候

十二月六日雨降

夜中風立

金サシマ、チ入、ツ、
丸打セシ、ツ、位
錢ウ、イ入、イ厘
肥後米ウシ、ウ入

昼同事

一勢州宗憲様御病氣御同遍と申内、日々御勝レ不被遊候由、依之御見舞差下可申旨、京都店を申来り候付、則昨夕差下申候

一山川太右衛門事此度伊右衛門と致愛名候段京都店を申来ル

十二月七日天氣

風立

金サシツ、イセ入、昼マツ入
丸打シ、イ入、セ厘
錢ウ、イ入、セ厘
肥後米ウシ、イ、也

一奥村貞山方々七十年賀剃髮為祝儀赤飯一重店表江出ス、尤当地限別宅人中江も一重宛到来ス、孫七郎も組合祝儀差送り候付、是又同様到来ス

一鳥村新兵衛殿并西方寺寒氣為見舞入来、尤西方寺は納豆一曲使僧ヲ以到来ス

一石井与三郎半元服、井口庄太郎上座ニ申付ル

一土岐様ハ八郎右衛門様江御到来鳴一番御礼状下り候付、御使へ之溜メ足輕銀セ、仲人鳥目丹文相添為持遣ス

(二百匁)

一御同所様新調達金之儀段々無扱被仰聞、其上舟サシ金之内相減

申候得共、御年賦銀御渡方五ヶ年御断之趣ニ付、不得止事被仰

聞候通舟サシ金御請申、右御年賦銀之儀年々無御相違御渡被下

候様得と致義理詰御請申上候様、京都店を申来り候付、今日右

御屋敷江久次郎参上、桜井伝右衛門殿江懸御目右之趣取繕、弥

金高舟サシ兩御請申上御年賦銀年々無御相違御渡被下候様御義

定申上候処、纏之儀押而御頼申候も氣之毒存候得共、外方一統

割合之儀ニ付強而御頼申候処、預御承知忝存候、然ル上者年賦

御渡方之儀年々急度無相違御渡可申候条、此段京都江何分宜為

申登具候様厚ク御挨拶被仰聞候、尤右新調達年賦御渡方等当十

一、二日頃御差引可被成旨、且御同人御事当地御用向相濟候付、

当十一日御発駕御帰府之由被仰聞候、依之儀別之儀京都店江内

談及通達候

一深井孫七郎儀当春々爰元店江為勤番罷出、右之内者阿部様、土

岐様御屋敷病氣分ニ申立置候処、此節ニて、而ハ、右両御屋敷共

孫七郎致出坂罷在候段、薄々相聞得有之趣ニ付、此節右両御屋

敷共專御懸合も御座候付而者、何角と不都合之筋も有之候、依

之此度ハ孫七郎右両御屋敷共引退、已来五十川清太郎相勤候積り主中様方ハ御通達被遊候付、右之趣今日桜井氏へも久次郎ハ御断申上、猶又島村氏江も同様取繕御断申上置候

一道修町一丁目加賀屋弥三右衛門居宅并道修町三丁目加賀屋弥一郎抱屋敷一ヶ所引当ニ取之、右別家加賀屋仁兵衛、同美さ代判宇兵衛連判証文ヲ以銀高サシメ、歩合月イ歩来ル末三月限引当丈夫ニ付、新取組致遣候

十二月八日晴天

金サシツ、ツカ入 屋マ、ウ入、ウツ、
丸打シ、ハ、セシ、位
錢ウ、ハ、イ、エ、チ、厘
肥後米ウシ、ハ、イ、カ入

暖氣之方

一寺井瀬兵衛儀、南紀御下ケ金之儀ニ付罷下り、今朝着坂、無難

貝塚泊り之積罷下ル、供男甚兵衛、爰元ハ新蔵遣ス

一爰元ニ吉野花供(儀カ)法(儀カ)と申町内触ニ而家別ニ米一升程取ニ廻ル、且垣当之由町里と同断取ニ廻ル、但二季ニ相廻ル

一勢州宗惠様御病氣御勝レ不被遊候、甚御大切之様子ニ候間、御見舞状差下候様京都店ハ申来り候付、則御見舞今夕京都店向為差登申候

一当店向角屋半右衛門後家死去、今七ツ時於浜墓所葬式相営被申候付、男頭徳兵衛差出ス

一和大屋次兵衛平野町抱屋敷一ヶ所引当ニ取之、銀(千貫目)シ、歩合月イ歩来ル五月切ニ御印取組、引当随分丈夫口ニ候

十二月九日曇天

暮時ハ雨降
金サシツ、ハ、イ、セ、入、屋セマ入、
丸打シ、ハ、セ、入、サ、エ、厘
肥後米ウシ、ハ、イ、セ、入

一西方寺貞玉尼ハ寒中為見舞納豆一曲到来ス

一先月廿四日夜当店門口江捨候小兒(癖カ)氣強養生不相叶今朝致死去候付、早速東御番所江町役人中并爰元店藤次郎同道御届申上候

一御檢使御出被成、書物等御取相営候様被仰付候付、梅田墓

ニ而火葬ニ相営申候、御檢使東組同心三宅四郎右衛門殿也

一勢州宗惠様御儀段々御差重御急變差出、終五日夜八ツ時御死去被遊候、依之則兵衛様、則右衛門様宛御悔状差上可申旨、且御

戒名左之通
十二月六日
功々齊宗惠居士

右之通京都店ハ無番状ハ申来ル、依之御悔状京都店江向為差登申候

十二月十日曇天

金サシツ、ツカ入 屋ツサ入
丸打シ、ハ、セ、入、マ、シ、位
錢ウ、ハ、セ、入、ウ、厘
肥後米ウシ、ハ、イ、入

一桜井伝右衛門殿御事当地御用向相済明朝出立、御帰府ニ付京都

店江申遣、御餞別左之通
御端物料
一金サ舟疋 八郎右衛門様ハ 一多葉粉入五ツ 孫七郎ハ 代シ、也
但此度土産到来付

右之通今日差送り申候、尤右餞別之儀御城代已前之格とは格別宜相成候、當時殿様御代も替り、度々御引合事も無之候付、

右餞別之儀等御城代已前之振合ニ立歸り、古伯丹後羽織地袴地之類直段マツシ、或はサシ位之品ニ而可然哉之旨、京都店江

申遣候処、先此度は近例之通り金サ舟疋可遣段申来り候付、右之通差送り申候、已来者前々之形ニ戻り候方可然候事、且大坂

店名代江は土産無之候付、是迄何逆も孫七郎一名ニ而差送り候、尤孫七郎此度□□退候得共、土産物到来ニ付、右之通差送り

申候、久次□□も今日為暇乞堀川御屋敷江罷越申候
一宗惠様御死去ニ付御慎方之儀元方御状之左之通

遠慮四日
御宅々表大戸閉申建
店々内一日見世上ケ
精進七日
精進七日

一其元店々之儀建之通半減ニ相心得可被申候
右之通被仰下候付、当地両店申合左之通

遠慮二日
内一日見世上ケ
精進四日
但十三日迄

右之通ニ付両店共今日夕方見世早クメ候而、本店者明日計台所中戸江暖簾掛ケ被申、両替店は見世入口西之方江境格子壹枚入置申候事

一右御不幸之儀本店申合、家督并退役江も廻文ヲ以申遣ス

十二月十一日天氣

金サシサ、也 屋サ、チウ入
丸打シ、マシ、位
銭ウ、ツ入マ厘
肥後米ウシツ、也

一関東筋川々并伊豆国川々御普請御用掛り当月六日□□之間左之通被仰付候

松平蔵頭様 松平安芸守様

三十壹万五千石 四拾二万六千石

松平出羽守様 松平土佐守様

拾八万六千石 二十四万貳千石

松平阿波守様 有馬中務大輔様

二十五万七千石 二十壹万石

松平大膳太夫様 松平相模守様

三拾七万石 三十二万五千石

松平富之進様 松平主殿頭様

拾万石 七万石

加藤遠江守様 京極能登守様

六万石 五万千石

内藤徳丸様 伊東虎三郎様

五万石 五万二千石

溝口亀三郎様 九鬼長門守様

五万石 三万六千石

伊達和泉守様 吉川監物様

三万石

六万石

十八大名御知行合式百八十九万石

右之通(被)仰付候段、江戸店より申来ル、尤於当地高池三郎兵衛噂

ニ而者御金御手伝ニ而御知行老万石ニ金千七百兩宛之御割法之由、左候時者前件御知行高ニ而金合四拾九万三千三百兩ニ相成ル

一松井伝右衛門殿御事、弥今朝御発駕御帰府被成候

一江戸当月四日出本六日切、同六日出五日切書状今夕方追々相違

先頃相願候御為替増渡之儀願之通御開濟被成下、春渡り之分年内江御繰越、当月十六日、廿三日共仲(金地二百五十四貫目)マ舟サシメ、宛、来

ル正月十六日、廿三日者サシメ、宛御渡可被下旨於江戸表被仰

渡、則右之趣当地御金方江之御添簡御渡被下候処、今夕方到着

ニ付、不取敢先平三郎ニ為持遣御届申上置、猶又御渡シ方之儀

明朝三組申合罷出御伺申上候積りに候、依之右之趣京都店江本

状ヲ以委細及通達候

一宗惠様御不幸ニ付今日当店境格子入長腰簾掛相慎

一御同所様御中陰御法事之儀ニ付、本店庄右衛門殿相談被參、先

格繰出シ宗三様之通り明十二日御初七日ニ相当り候付、於西方

寺御法事御執行御頼申積相極決着致候付、則右之趣同寺江案内

被致候

一京都店より本状到来、去巳年大川筋店役銀来ル十六日当地御金蔵

納相成候付、小堀様より齋藤空之丞殿手前より深井助九郎、島本方

より細野平十郎付添、来ル十四日昼舟ニ罷下り申候間、例年之通

於当地は手前より何角致世話候筈ニ候間、旅宿案内出迎、其外上納方万端無間違取計可申旨、則御銀高左之通

一銀三拾九貫四百六拾目七分貳厘 手前分

一銀三拾七貫八拾三匁七分三厘八毛 島本三郎九郎分

銀七拾六貫五百四拾四匁四分五厘八毛

右之通申来り候、且右之外ニ同日伏見新舟運上銀八貫六百目上

納相成候付、右御証文之写一通到来、御銀并御証文御本紙者来

ル十四日昼舟ニ前件便りニ助九郎持參罷下り候間、日限無間違

相納御納札申請為差登可申旨、右之御添簡者昨夕為差登今日着、

則相届申候

十二月十二日曇天 金サシカ、チ入、マ入 昼エ、マサ入

夜中雨降 丸打セシ、ツツ、位 銭ウ、サカ入 肥後米ウシマ、ウ入

一御為替増渡り之儀為何三組申合罷出候処、御下知之通弥来ル十

六日、廿三日共仲間江マ舟サシメ、宛来ル正月十六日、廿三日

者仲間江サシメ、御渡可被下旨被仰渡候

一高池三郎兵衛入来、土岐様御用達金之儀御苦勞罷成忝奉存候、

伝右衛門殿ニも宜御札申入候様被申置候旨、於拙者も忝段為換

摺入来、且右御用達金舟サシ(百五十七)両今日之相庭ニ而代銀付仮証文御

渡可申候間、今日金子相納具候様、将又年賦銀御渡申儀は一両

日中自是御案内可申段被申之候、依之右金高舟サシ(百五十七)両今日相場

(五十七夜分)

サシエトツ入替之積、式朱判ニ而納代銀八貫六百拾匁^(貸カ)代付之飯御証文引替相納申候

一宗憲様初七日ニ付、於西方寺御法事有之候付、孫七郎、久次郎本店^ノ庄右衛門、武右衛門參詣ス

一西方寺来春本山黒谷御忌当日導師被相勤候付、先達而寄附之儀村井新左衛門ヲ以本店、両替店江も被相頼候付、両店相談之上此間金^{五百}サ舟疋差送り申候処、今日右之挨拶^ト噂ニ被致候

一寺井瀬兵衛紀州御用向相濟、今夜亥刻致着坂候

十二月十三日雨降

夜四ツ時^ノ晴
金サシエ^ノマ入 昼カ^ノチ入
丸打シ^ノセシ位
錢ウ^ノカ入サ厘エ入
肥後米休日

一寺井瀬兵衛儀、今日笠間御屋敷江参上、当暮之御勘定一日も早ク御渡被下候様申込候処、来ル十八日以後、金子御買入無相違御勘定可被成段被仰聞候
一右同人今夕罷登り可申込、雨天故出舟無之見合罷在候

十二月十四日天氣

金サシカ^ノイマ入 昼サ^ノウ入カ
丸打無^ノシ位
錢ウ^ノサ入サ厘
肥後米ウシカ^ノイ入

一明後日渡り御為替為伺久次郎罷出候処、仲間江マ舟サシ^(三百五十貫目)、御渡可被下旨、則割合後明書、且先月廿六日当月六日江戸上納相

濟候御納札等持參御月番江差上、且大川筋伏見新舟上納銀之儀等御届申上置候

一寺井瀬兵衛儀御用向相濟候付、今昼舟ニ帰京ス
一江戸屋源右衛門方^ノ左之通御用懸被仰付候段相知ス

將軍宣下 松平周防守棟

御代替法令 牧野越中守棟

種姫様御入興 水野出羽守棟

御朱印御改 島居丹波守棟

ノ

一大川筋国役銀并伏見新舟運上銀、同御納御証文等小堀様手代齋藤李之丞殿并深井助九郎、島本手代細野平十郎付添今昼舟ニ罷下、舟中無難今七ツ時着坂、御銀并御証文等改請取申候

十二月十五日終日雨天

金サシサ^ノセサ入 昼ツ^ノツカ入
丸打サ^ノシサ位
錢ウ^ノツ入サ厘サ入
肥後米ウシカ^ノウ入

一今朝御礼久次郎罷出候、夫^ノ明日渡御為替証文并伏見新舟運上銀御証文共御月番江差上、御書替手前江持帰り申候、尤大川筋納御証文者齋藤李之丞殿^ノ御月番江御差出、御書替も御同人御持帰り被成候

一八郎右衛門様当寒氣為御見舞御下向可被遊処、未御不快ニ付、今日名代ヲ以定式茶宇御上下地二具宛御両殿江久次郎持參、右

之趣程能御断申差上申候、且両御家中并天満与力衆江も定式之通目錄為持差送り申候

一 今朝常之通、昼歸あん懸、汁干かぶら 夜酒肴鯛小串ゆりね

一 小堀様御手代齋藤李之丞殿旅宿天満河内屋伊兵衛方江久次郎并深井助九郎御見舞申候

一 銅座此此間当月廿九日切江戸御下金三千兩為替被仰付、其段当月十一日御勘定所江御届申上候処、若林市左衛門様御立出、右金子者羽州江御差下ニ相成候付、廿九日ニ相納候而ハ間ニ合不申候間、相働廿三、四日頃相納候様被仰渡候由、然ル処、右引繼為替当月廿八日切ニ当地カ取組遣候付、逆も繰越納相成不申、江戸店ニも時節柄遊金無之候付、其段御断申上候得共、半金ニても繰越相納候様被仰渡候段、当月十一日出四日切仕立飛脚ヲ以申来り候、依之爰元取組先江右日限廿三日切ニ縮之儀及内談候得共、二軒ニ而式千兩者右日限引繼無之段断ヲ申、残り千兩式百五拾匁打ニ而廿三日請取候積り致対談、添取取之、且正金千兩今夕七日切ニ而差下、残り千兩者当月廿九日ニ御断申上相納候積り、今夕五日切仕立飛脚ヲ以江戸表江及返答候

十二月十六日朝之内雨天 金サシサツカ入 昼マサ入

星過カ晴

丸打サシサ位

錢ウサカ入

肥後米ウシウエ入

一 今日御為替銀請取并伏見新舟運上銀納等久次郎罷出左之通

一 銀舟カシイ百六十二貫五百目メサ舟、手前 一 銀舟サシイ百五十一貫五百目メサ舟、十人組

一 銀マ舟サシメ三百五十五貫目、内小玉マシメ三十貫目、上納末三月十八日

一 銀八貫六百目伏見新舟運上銀納方相濟御納札申請ル

一 大川筋国役銀納方無故障相濟、小堀様手代齋藤李之丞殿カ手前分上納銀高書替御渡被成候、島本方も同様御渡被成候

右之通請納共無故障相濟候付、例之通為御届相廻り伏見新舟御納札御印等頂戴相濟候、尤当月六日江戸上納相濟候御納札引替も無故障相濟申候

一 右之通大川筋国役銀上納并伏見新舟運上銀上納無故障相濟候付、小堀様御手代齋藤李之丞殿并深井助九郎、島本手代細野平十郎今夕舟ニ罷登ル、尤伏見新舟運上銀御納札壹通助九郎右幸便ニ持登ル、將又右幸便ニ銀マシメ三十貫目并当座差引殘金等為差登候様申来り候付、是又右同舟ニ助九郎京店出入又七付添為差登申候

一 京店差図ニ付銀サシメ五十四貫目、今夕江戸店江当地店カ差下申候

十二月十七日晴天 金サシササチ入 昼チ入カ

但節分也

丸打サセシ位

肥後米休日

一 紀州替金四十五ツシサ兩京都店カ下り候付、栗山惣兵衛殿江向当方カ

書状相添今夕差下ス、尤此儀此間瀬兵衛罷下り候節、栗山氏江委細申達置候事

一九郎右衛門様、御千勢様、当店江歳末為御祝儀金子舟疋被下置候、尤右者是迄孫兵衛、嘉平次江被下置候代りニ可有御座哉と存候

一 柘植長門守様撰州吹田御知行所太田官次殿入来、江戸右御屋敷江之御下金百両御頼ニ付為替取組遣候、尤此儀先達而江戸於御屋敷御用人衆、三郎助様并名代江も御頼被仰聞、兼而申来り有之候付、其趣ニ取計申候

一大津屋九兵衛御池通三町目一ヶ所、阿波座敷屋町一ヶ所、橋通(四十五貫目)り三町目一ヶ所、右三ヶ所共町々年寄奥印取之、銀高ツシサメ、歩合子朱サニ而来未五月限ニ引当、丈夫ニ付取組

一 今日座敷床江年徳神懸燈明洗米御酒、且同入口江楓ニ洗米、燈明其外神棚荒神等同様料理方朝常之通、星猪口輪大根、汁常之通、平鴈、焼物(丹後)、肴(午尻)、夜食(平かき)、白とうふう、敷ノ子

一 竹内文次郎小齋ニ而十月、引籠罷在、今日、出動ス

十二月十八日雨降夜七ツ
辰二割立春
金サシカ、ウ入、エ入、星カ、ツカ入
丸打シ、カマシ、位
錢ウ、エ入、サ厘、チ入
肥後米、ウシ、ウ、ツ入

「鉄蔵様」
一 戸川山城守様、例年之通次郎右衛門様江寒中為御尋小嶋二羽被下之候付、即夕京都店江向為差登申候、右者用達佃屋吉兵衛方、為持差越ス

十二月十九日曇天
金サシカ、ウ入、エ入、星同事
丸打シ、カマシ、位
錢ウ、エ入、サ厘
肥後米、舟、ト也

一 当店昨夜四ツ時、煤払、但夜四ツ時表二有之候証文箱并諸道具奥座敷江相片付、夜七ツ時、表通り店勘定場其外疊揚ケ候事、尤今八ツ時夕飯、(生)汁、(大)根、(身)鰯、(二)ツ切、焼物、酒出ス、肴なし
一 新田浅田弥助儀、当暮、弥右衛門と致変名度旨、差支無之哉之段申来り候付、則差支無之候条、勝手次第変名可有之旨申遣候、尤変名之上猶又相届可申段も申遣候

十二月廿日天氣
金サシカ、ウ入、カ、イ入
丸打無打、シ、位
錢ウ、カ、エ入
肥後米、舟、ト也

一 笠間御屋敷当暮御勘定御差引金当年者不残於当地御渡被成候管二候、右之内江今日金千四百両御渡被成候付、右之趣今夕京都店江別紙ヲ以及通達候
一 江戸店松島太助事今般林右衛門と致改名候段、当地本店、為相知被申候、尤京都店、も同様申来り候

十二月廿一日曇天
庚申
金サシカ、セ入、星同事
丸打無打、シ、位
錢ウ、カ、入、サ厘
肥後米、林、日

一 明後廿三日渡御為替為同文次郎罷出候処、仲間江定式マ舟サシ(三百五十貫目)、清水御収納銀カシメ、御渡被下候筈、依之割合書付明家質書付等御月番江差上申候

一 笠間御屋敷御勘定当暮御渡金之内、今日マ仙両御渡、殘金者明日明後日之内御渡可被成旨被仰聞候

一 土岐老之助様御屋敷当暮御年賦并御利足等高池方今日相渡、左之通

一 銀マメマ舟シ(三百三十二匁)、元銀ウシセメ之内、当年分年賦渡

一 銀カ舟(六百匁)、元銀濟殘高シメセ舟之内江当年分元濟

一 銀サ舟シ(五百十九匁)、右同断当年分御利足

メ銀ツメツ舟セシ(四百四十二匁)

右之通相渡り候付、例之通久次郎請取書ヲ以無滞請取申候付、右之趣京都店江本状及通達候

一 当地御金同心辻村忠右衛門殿、村田惣右衛門殿事江戸御勘定無故障相濟、当五日江戸出立、東海道十三日経罷登り被申、道中無難当十七日着坂被致候付、着悦ニ罷越候処、久次郎江惣右衛門殿御逢、拙者儀於彼是病氣罷在、別而彼是と御世話相成、其上出立之節も御餞別等被下、御厚志之段與々忝次第存候、何分江戸表江宜御礼申遣呉候様御挨拶被仰聞候

十二月廿二日天氣 金サシカ、イ入 昼サ、カチ入
但風立 丸打無打シ、位
肥後米舟、サ入

一 明日渡御為替証文文次郎持參御月番江差上、御書替八十人組江持帰り申候

一 笠間御屋敷々京都江御登せ金銀左之通

一米拾九石弍斗 宗巴様御扶持方

代銀イメエ舟ツ(一貫七百四匁)、但チシチ、エ入サ厘替

右者手前分、右之外左之通

一金セシチ兩 但皆金 八郎兵衛様
一 銀マメウ舟シ(三百九十一匁二分)、イ入七厘

内 (一貫五十一匁二分)

イメサシ(一貫五十五匁八分)、セ入サ厘 佐藤源兵衛渡御状添

イメ舟サシ(二百八)、チ入エ厘 荒木伊兵衛渡右同断

金セシチ兩 但皆金 同 伊右衛門渡右同断
關名寺渡右同断

右之通為差登呉候様御頼ニ付、請取為差登、猶又委細別紙ヲ以清太郎、瀬兵衛江文次郎及通達候

一 岸本安次郎、井口伝メ餅搗祝儀差出候

十二月廿三日天氣 金サシサ、イ入 昼イマ入
余寒強夕方風立 丸打無打シ、位
肥後米舟、イ入

一今日御為替銀為請取、文次郎罷出左之通

(百六十一貫五百目) 一銀舟カシイメサ舟、手前 一銀舟サシイメサ舟、十人組

(三百五十貫目) 一銀マ舟サシメ、内小玉マシメ、上納末三月廿六日

右者定式、右之外清水御收納銀左之通

一銀(二十八貫目) 手前 一銀(二十五貫目) 十人組

一銀(七貫目) 上田組

メ銀カシメ、内小玉シメ、上納末三月廿六日

右之通無故障請取候付、例之通為御届夫々相廻り申候

一安井新十郎殿、松井官左衛門殿、三組宛手紙到来、堺御役所御

種人參代金銀拾九兩貳步、四匁四分八厘四毛来末二月十八日上

納之積り御為替被仰付旨申来り候、然ル処少金当番上田組ニ候

得共、名代他行ニ付手前江請取相納具候様申越候付、則手前

証文相認、文次郎罷出右金銀無故障請取申候

一笠間御屋敷当暮御渡金イ仙マ舟マシチ兩、銀サ、今日御渡被成

皆済相成申候、則差引左之通

一金マ仙サ舟兩 月並金

一銀シ、右御利足年チ步之積

内(百七) 舟シ兩 (二千五百)

元金イ仙サ舟兩三月、十二月迄

元金イ仙兩四月、十二月迄

元金イ仙兩四月、十二月迄

十一ヶ月分

十一ヶ月分

(シ) カシ兩 (六十七) 元金イ仙兩五月、十二月迄九ヶ月分

一金マ舟兩 (三百)

御用達金マ万七仙ツ舟エシイ兩壹步

御用達金チ仙兩之内へ御元済

右之御利足

御用達金サ仙エ舟サシ兩之内江御元

一金マシエ兩マ步 (三十七)

古借金之内江請取

一金マシエ兩マ步 (三十七)

右之通追々請取、当年分御勘定皆済相成候付、右之趣今夕五十

川清太郎、寺井瀬兵衛江竹内文次郎、別紙ヲ以委細及通達、代

り金店状、付替為差登候

一今治御屋敷、例年之通歳末為御祝儀金マ舟疋被下置候

一今井幸方、餅搗為祝儀重之内到来ス

一今夕店寄会相勤、当月限対談岡御屋敷取組筋先判人江懸合、其

上ニ而牧印江申込可然旨、且御書届之節雇男大方召連候付、以

来日之内者子供召連、夜ニも入可申候ハ、下男召連可申儀等及

相談候事

十二月廿四日天気 金サシサマツ入 屋サマサチ入

但風立

丸打無打シノ位
銭ウノサ入チ厘カ入
但年内今日限
肥後米舟イノツ入 但来正月五日(五百)

一笠間御屋敷ノ文次郎江歳末為御祝儀金サ舟疋被下置候、依之御
礼罷越京都店江も別紙ヲ以申遣候

一阿波屋伊兵衛江昨年迄歳末為祝儀例年銀マ枚宛差送り来り候得
共、当時ニテハ質方、家質方世話も無之、其上向方代替り旁ニ
付、昨夜何れも相談之上当年ノ改銀野枚差送り申候

一御屋敷方并町方共歳末祝儀昨今ニ為持差送り申候

十二月廿五日曇天 金サシサマカチ入 屋カノセ入

但暮時ノ雨降

丸打無打シノ位
銭ウノカエ入
肥後米年内昨日限

一歳末為御礼今朝御兩殿并御家中、御金方且天満与力衆其外勤方
之分久次郎、文次郎罷越相勤申候、尤御兩殿江は定式目録金サ
舟疋宛名連ニ而持参差上申候

一阿部様御屋敷村田万太夫殿ノ久次郎江手紙相添、歳末為御祝儀
金マ舟疋被下之、島村新兵衛殿、村田寿右衛門殿も歳末祝儀
連名手紙ニ而申来ル、依之御礼罷越、右之趣京都店江も為心得
別紙ヲ以申遣し候

一土岐様御屋敷ノ御使者御入来、歳末為御祝儀左之通
御紋付 御小袖 一ツ 八郎右衛門様江 御使者 小坂源五右衛門殿
但御目録熨斗包添

右同断

一御上下 一具 五十川清太郎江
右同断

足輕者人
中間式人

右之通為御持被下候付、請取書相認遣、右品々今夕京都江為差
登本状ノ委細及通達候

一水谷武右衛門名跡大和屋友四郎忌明為御礼入来

一江戸本店田所彦右衛門、今般宿入婚礼首尾能相整申候段申来り
候付、則今夕歛状差下申候

一今日道明寺江代参無人ニ付、出入平兵衛為致参詣候

十二月廿六日晴天 金サシエトマサ入 屋エトサ入チ

但暮時小雨降

丸打無打シノ位
銭ウノチ入チ厘
肥後米年内一昨廿四日切

一当店餅搗廿四日夜出入餅屋ニ而内祝、翌廿五日朝せんさい餅相
祝申候、酒出ス、肴牛尻 且今廿六日竈上塗祝 夕飯 鱈花鱈
汁天王寺 焼物小鯛掛汁 酒出ス 取肴無之候

一今日西佐野様御役所江十人兩替被仰呼、向後小判百兩ニ付式朱
判式拾五兩差交、通用可致旨被仰渡候

一此節米高直ニ付当暮抱屋敷宿賃集り兼可申存候付、相談之上家
守中江右之趣申渡、当暮之所別而出情取集可申段夫々江改申渡
候事

一佐野様御用達金御利足昨今年御渡不被成候付、久次郎参上、森

繁平殿江懸御目程能申取候処、今年分拵置候間、勝手次第請取罷越候様、昨年之所江は心付不申候付、仕組無之候、来春ニても御渡可申旨被仰聞候、依之後刻文次郎請取書相認罷出、左之通

(六)(二) 元金舟兩当年正月同十二月迄閏月共
一金カ兩七歩 十三ヶ月分御利足月サ朱之積り

右之通繁平殿御逢御渡被成候、尤昨年者御失念御拵置不被成候間、追而御沙汰可被成段御断被仰聞候

一 小田切様右同断舟^(百)兩御利足初年分相渡り、其後御沙汰無御座候付、今日文次郎罷越本川九十九殿江懸御目御催促取締申達候処、尤成儀ニ存候得共、登坂後彼是物入打統難渋罷在候、御手前方は当地逆も呉服店、両替店も有之候付、当冬之処今舟金御頼可申入様存候得共、前件利足も御渡不申候付、難申出見合罷在候、外方も出金致被呉候方も有之候得共、利足催^(七)捉^(七)者無之候、右之通難渋之砌候之間、何分今暫御断申入ルも外無之旨被仰聞候付、猶又程能申取致退出候

十二月廿七日天氣 金サシカ、チ入、星エ、セツ入
但余寒強少雪 九打シ、セシ、位
錢ウ、エ入サ厘チ入 肥後米年内休

一 京本店中塚徳次郎当地本店無人ニ付、当分為助勤出坂、吉太郎同道入来

一 笠間御屋敷江爰元店限御用達銀カシメ、御返済之儀、文次郎參上取繕御催促申上候処、御不^(八)操合之由御申双御断被仰聞候付、不得止事当七月同十二月迄閏月共七ヶ月分、利足月^(八)チ朱之積^(八)銀マ、マ舟カシ、今日請取、猶又御返済方之儀程能申込置候事

十二月廿八日天氣 金サシエ、セ八、星エ、ツカ入

但余寒甚強シ 九打シ、セシ、位
肥後米年内休

一 土岐様八郎右衛門様并清太郎江之拜領物御礼状昨日到着ニ付、御使者江之溜メ銀イ兩、足輕江セ、中間兩人江鳥目セ舟文相添為持遣し候

一 若山御勝手方御状到来、銀高サメサ舟マシセマ入サ厘之八郎右衛門様御印形当十月之月付預り手形一通、当地伊豆藏伝藏江可相渡、若大坂ニ而相渡候儀差支候ハ、京都ニ而伊豆藏五兵衛江可相渡旨、尤京大坂何れ江相渡候共伊豆藏方請取書取之、若山江差下可申段被仰下候処、右之儀未京都何等之案内も不申来候付、当地伊豆藏方右御状相届、銀子請取度申聞候得共、右之趣断申遣、京都ニ而御請取候様申遣、則右之趣今夕京都店江委ク及達遣、八郎右衛門様預り手形も為差登申候

十二月廿九日天気 金サシエ、ムセ入 屋エ、イセ入
余寒強風立 丸打セシ、ムサシ、位
錢ウ、チ入、ムサ屋
肥後米年内休

(百九十七)

- 一阿部様当暮年賦金舟ウシ、兩御渡方之通先達而ム久次郎罷越、度々及催促候得共、何分当暮之処甚六ヶ敷今調達致工面居候段被仰聞相分り不申候処、今晚島村氏、手紙到来、年賦御渡金之儀何卒御渡申積色々工面□覺等申談候処、今日至俄ニ差支之儀有之調達金断申出候而、俄之儀誠致当惑候、最早今日ニ至外ニ手段も無之候間、来ル二月迄御猶予被下度、此段訳而御頼申入候、京都へも書状ヲ以御頼申進候旨御申聞、則清太郎江之書状一通被遣候付、今夕為差登、猶又右之趣別紙ヲ以委細及通達候
- 一右御屋敷、前件調達金對談之為御挨拶金野舟疋久次郎江御勝方御役人連名手紙相添被下之候
- 一右御屋敷調達金ツ舟向来ル未五月切、右同断ツ舟サシ、向未十一月切、右二口今日新証文ニ引替相済申候
- 一新田浅田弥助儀、一昨廿七日、弥右衛門と致改名候段申越候付、右之趣京都店江別紙ヲ以申遣候
- 一頭名靈社木島森江御建被遊、毎年八月廿二日御神事御祈禱御座候而、主中様方并店々、も致參詣候、江戸表ニは無之候付、吉田二位様御筆之御神号宗巴様、被遣候而、毎年正月三ヶ日并八月廿二日燈明御酒洗米等相備、神拝仕候付、京大坂店も右神号相祭候様御懸地一幅御渡被遊候付、爰エ店分一幅今日致到着候、

依之向後毎年正月三ヶ日并八月廿二日御祭、正月者支配人已上十二銅差上、右十二銅年々積置可申旨申来り候事

十二月晦日曇天

金サシエ、ムセ入 屋同事
丸打シサ、ムセシサ、位
錢ウ、チ入、ムサ屋
肥後米年内休

朝五ツ時、雨降

- 一阿部様当暮年賦御渡方御断ニ付、一昨夕京都江及通達候処、先達而之両口共手返しニ調達御請申上候処、年賦之儀右躰被仰下候而者迷惑奉存候、乍然今日ニ至難仕旨申上候而も不相済儀ニ付御請申上候、左候ハ、来ル二月迄御利足付別御証文御渡可被下旨懸合可申段京都、申来り候付、則久次郎罷越島村氏江懸御目右之趣取繕御面談申上候処、御尤之儀ニ御座候得共、拙者儀も今日無程中野、陳屋江罷越候ニ付右証文御渡可申儀も難相調候、何分来春早々頭役共へも申談候上、自是否哉可得御意旨被仰聞候付、程能及御挨拶罷歸り候
- 一今日座敷床江年徳神且前件頭名靈社祭燈明、御酒、洗米等相備何れも神拜ス
- 一今朝常之通、屋椀替ル 繪花籠 汁、天王寺 平、馬鴨 焼物、丹後酒 肴組重 夜食、豆腐 酒 肴組重
- 一今夕四ツ時本店江歳末祝儀懸方集り為挨拶孫七郎罷越ス、此儀前々、当店筆頭罷越候旨、尤本店、ハ見江不申候
- 一日々金錢相庭三好門兵衛方手代弥四郎并油屋甚七月替り二日々

相庭帳付ニ參ル、依之弥四郎江金野舟疋、甚七江鏝節ニ連遣ス、(三三)

但中元も同様遣ス、右之外天王寺屋利左衛門と申者も參り申候得共、無念釈折々錢調遣ス

一米相庭日々河内屋辰三郎と申者書付差越、依之歳末為祝儀金野舟疋遣ス、且又京屋宗吉と申者江浜方諸式關合相頼候付、鏝節一連遣ス、右之分歳末計無伸元(中カ)

一当店書札方相勤候若狭庄兵衛と申者、今早朝罷出、夜ニ入候も罷帰リ不申候付、請人方は勿論、其外心当り方相尋候得共相知レ不申候付、着類相改候処持出候哉皆無同前、古拾古繻伴一ツ宛、三尺手拭一ツ、其外硯箱、きせる等ニ而一向無之候、然ル処店々町内髮結江相渡候銀子百目余店之引出し江入有之候処、此銀子相見得不申候付、決而致出奔候と相見得申候、依之早春ニ至御番所江御断申上候積候

(表紙)
一天明七未正月元日ヨリ二月六日迄

大坂店勤番日記

深井孫七郎

(別一五七一—三)

天明七丁未年日記扣

正月元日天氣午日 諸相庭無立会

一当月御月番小田切土佐守様、御金方御仮役江原九郎右衛門様、

下シ番十人組方ニ而相勤申候

一今朝御礼御兩殿江久次郎、文次郎定式之通御扇子十本入一箱宛連名ニ而差上、両御家中方手札計、御金奉行様方手札計、同手代衆見習共十九軒江者扇子三本入一箱宛持參、天満与力衆之内御金方立会、東西ニ而四人江手札計ニ候、御為替方与力衆東西ニ而

四人江は定式之通扇子三本入一箱宛持參差送り、夫々相勤可申候一御城代阿部様御中屋敷并御家中紀州御屋敷、且又土岐様御屋敷等久次郎相勤、笠間御屋敷江は文次郎罷相勤申候、右之通年始御礼夫々相勤申候

一町方御礼申合致手分夫々相勤申候
一元日床年徳神頭名靈社祭 朝雜こくし煎い餅い 大根 燒豆腐 向鹽し組重
星汁口塩 鱈花い 平赤貝い 串貝い 昆布 鹽出汗 酒出 肴組重
夜食常之通 夜酒 吸物かぶら打割 肴組重 別段玉子煎 長いいも

正月二日天氣

諸相庭無立会

一今日町方年礼何れも申合罷出ル

一新田規矩利平次為年礼出坂入来

一今日床同断朝雜たね煎い右同断 星汁たね煎い 平い 燒物いわし
酒出ス 肴組重 夜食常之通 但湯殿初朝風呂也

正月三日天氣

諸相庭無立会

一今日町方年礼何れも申合罷出ル

一新田浅田弥右衛門為年礼出坂入来

一当店若狭庄兵衛儀、今日迄も方々相尋候得共相知不申候付、弥御番所江御断申上候積りニ付、会所嘉助呼寄右体之振合相尋候上左之通

乍恐口上

高麗橋三丁目越後屋藤次郎支配
借屋三井次郎右衛門出店預り手代

喜三郎

一私人庄兵衛と申当未式十九歳ニ相成候者、先月晦日朝六ツ時頃ハ罷出帰り不申候付、方々相尋候得共未行衛相知不申候付、乍恐此段御断奉申上候以上

天明七年未正月三日

三井喜三郎病氣ニ付

代庄助印

右喜三郎儀當時病氣罷在候段相違無御座候付、乍恐奥印仕候、已上

家守越後屋藤次郎印

御奉行様

右之通相認東御役所江庄助持參御断申上候処、御留置被遊候、猶本人行衛相知候ハ、召連可被出旨被仰渡候

一右庄兵衛儀奉公人之儀ニ付雜物御糺者無之由、且家持ニても借屋人ニても当人ニ有之候得は、家出と相認候旨、尤雜物之御糺も有之由、奉公人ニ候得は幾日何時ニ罷出と相認候旨、勿論雜

物之御糺者都而無之物之由、町内会所嘉助申聞候事

一今朝雜煎右同断、昼汁のついでからし、平山のついでいりこいりこ、午房くわい、焼物焼物、酒酒、肴肴、組組

正月四日天氣

但今明日計庭屋締詰ニ而

米初相庭建式有

金サシエトエウ入 屋エトチ入
式朱打マサシト位
錢ウレサ入サチ厘
肥後米舟カトセ入

一今日江戸、京都江年始状并番状例年之通差出ス

一鴻池屋市兵衛尼崎町二丁目居宅七間ニ式拾間、同町統屋敷拾間

ニ式拾間、同町北側抱屋敷四間ニ式拾間、平野町三丁目中橋北

西角拾間ニ式拾間、右四ヶ所共町年寄奥印ニ而御印引当ニ取、

格別丈夫成口ニ付、銀高舟セシメ、歩合エ朱サ来ル十一月限ニ

取組、則今日取引相済申候

正月五日天氣

金サシエトエウ入 屋セマ入
式朱打マツシト位
錢ウレカ入サ厘
肥後米舟カトカ入

一島村新兵衛殿年始為御礼入来、久次郎江扇子二本入持參

正月六日天氣

金サシカトウ入ダエ、屋休
式朱打マツシト位
錢ウレサ入サ厘
肥後米休日

一 西方寺和尚為年札入来

一 今夕当店初寄会相勤、定式之通大式目并帶刀格式マツシ統聞せ、惣中

印形取之候、当月伊勢代参林庄助江申渡、且是迄医師衆服菓外料針等療治請取候而も当店ニ扣無之候付、向後相改、毎夕初元并角前髮惣中承合夫々帳面ニ相扣、其上夜判之節支配人組頭猶

又相改印形可致旨一同江孫七郎、半兵衛申談、其外取組向々申分有之方催促、且証文引替等不相濟分急々相改可申段申談候

事

一 右寄合終り夜食相濟候上、是迄当店ニ無之候得共、此度相改、京都店之通り勤番并当店頭役之者ノ店惣中并男頭迄年始盃事致候、尤看串貝、数子、午房此三種ニ而外ニ吸物取肴等致間敷事

一 今朝常之通 昼麦飯 汁とろろ 平焼豆腐 夜食餚花指 汁焼豆腐

平山串貝もいりこ 酒肴くき

一 今朝常之通 昼麦飯 汁とろろ 平焼豆腐 夜食餚花指 汁焼豆腐

平山串貝もいりこ 酒肴くき

一 今朝常之通 昼麦飯 汁とろろ 平焼豆腐 夜食餚花指 汁焼豆腐

平山串貝もいりこ 酒肴くき

一 今朝常之通 昼麦飯 汁とろろ 平焼豆腐 夜食餚花指 汁焼豆腐

平山串貝もいりこ 酒肴くき

一 今日残札申合相勤ル

一 今朝餅かゆ 組重 昼餚花指 焼物生餚 酒出ス 肴組重

一 今朝餅かゆ 組重 昼餚花指 焼物生餚 酒出ス 肴組重

一 今朝餅かゆ 組重 昼餚花指 焼物生餚 酒出ス 肴組重

一 今朝餅かゆ 組重 昼餚花指 焼物生餚 酒出ス 肴組重

正月八日天氣 金サシカトツサ入 昼カエ入

式朱打マツシ位 肥後米舟エトツサ入

硯蓋飯緒 吹ゆりくわい

正月九日天氣

但風立

金サシカトツサ入 昼同事 式朱打マツシ位 肥後米舟エトツサ入

一 此度於当地御買米被仰付候段及承候付、今日京屋惣吉方ニ而猶又承合候処、当正月四日夜浜方年行事東御役所江被為召、此度

米老万石余被仰付候旨被仰渡御請申上、翌五日内々年行事ノ手ヲ廻シ、直段舟百八匁ノ舟ウ、迄之内ニ而米買入相濟、則五日夜

御番所江御届申上候由、尤右之儀年行事計取扱、浜方一統江者為相知不申候旨、右は相庭格別引上不申候様御内密ニ而被仰渡

候由、右米直段石ニ直シ候得は、舟百四匁三分五マ入サ厘ニ相当り候由、右米江戸廻シ被仰付江戸着之上目之減シ等も可有之ニ付、今

イセ二匁方も高直ニ相当り可申旨

一 右御米金セ七方兩分御買上、金相庭サシカ、替之御積リニ而銀渡

リニ相成、則右相庭ヲ以今九日銀七百匁ノ御渡、残銀近日相渡

候筈之由、右銀子者浜方両替鴻池屋庄兵衛、加島屋安兵衛両家

江浜方ノ相渡置、買立米は右両家江振出シ申候由、右御米江戸

下シ方は管屋久兵衛江被仰付候旨、舟數拾艘計も入用之由ニ候、

一 右御米金セ七方兩分御買上、金相庭サシカ、替之御積リニ而銀渡

リニ相成、則右相庭ヲ以今九日銀七百匁ノ御渡、残銀近日相渡

候筈之由、右銀子者浜方両替鴻池屋庄兵衛、加島屋安兵衛両家

江浜方ノ相渡置、買立米は右両家江振出シ申候由、右御米江戸

下シ方は管屋久兵衛江被仰付候旨、舟數拾艘計も入用之由ニ候、

右之趣ニ付京都店も為心得申遣候

一 山中半兵衛儀、京都江年始為御礼今夕舟ニ罷登り申候

正月十日天気

但暮時前の雪降

諸相庭共休日

一大坂一統休日、依之当店も例年相休候由、朝常之通、昼生給太襪セリ

汁のついでよめな 平串貝も 酒出ス 肴組重 但朝風呂

午尻いりこくわいも

正月十一日天気

但余寒強折々小雪降

金サシカエチ入 屋カエ入

式朱打セマシ位 銭ウサ入カエ厘

一 勢州代参林庄助今朝出立ス

一 笠間御屋敷碗飯被下候付、例年之通文次郎参上ス

一 小田切様御妾服ニ而御女子様当八日御平産御座候付、上田方申

合、今日為恐悦文次郎罷出候

一 今日例年之通帳書相祝矢野庄次郎認ル、朝常之通 昼醬油雑餅煮水候

正月十二日天気

余寒強

金サシカサカ入

式朱打セマシ位 銭ウサ入カエ厘

一字野十右衛門為年礼出坂、塩鱈一尾、菓子一箱、八幡蒟蒻拾為

土産持参ス、依之為挨拶銀子野両差送り候

一本店清水藤兵衛儀久々病氣罷在候処、養生不相叶終昨十一日八

ツ半時致死去候段為知来ル、葬式之儀は明後十四日八ツ時梅田

於墓所相営申候由、且梅状宛名之儀娘未幼年ニ付、妻民宛ニ而

可然旨本店申来ル、依之右之趣京都店、江戸店江も別紙ヲ以

申遣シ、何れも為悔罷越ス

一 当年北国米登り高承合候処、左之通

一加賀米五万三千石之内三千石は江戸廻シ、残り五万石大坂着

一米子米五万五千石 一出雲米貳万石

一新発田米貳万五千石 一秋田米壹万石

一越前米壹万貳千石 一津輕米壹万三千石

一富山米六千石 一三島米四千石

一出石米貳千石 一鯖江米三千石

一村松米五千石 一桶津米七千石

一仙台米壹万五千石

一 米高貳拾貳万七千石大坂表江着之由河内屋辰三郎方カ書付差

越申候付、為心得京都店江写取為差登申候

一道明寺役人辻友右衛門為年礼御礼持参入来ス

正月十三日天気暖

但暮迄俄雨降雷強鳴

金サシカツサ入 昼マツ入

式朱打セマシ位 銭ウサ入カエ厘

一阿部様御用達金舟ウシ(百九十七)両去暮御返済之儀、旧蠟押詰色々御工面

被成候得共難相調候間、当未二月迄差延呉候様無抛御断被仰聞候付、左候ハ、二月迄之別御証文利付之積リニ而御渡被成候様、其節揃合申候得共、是迎も押詰候儀御証文引替等之儀御断、別証文利付之儀は御承知、当春早々御証文御引替被成候積リニ去冬致対談候処、漸今十三日御案内有之候而別御用達金舟ウシ(百九十七)両利足イ歩イ当二月限御返済可被成御証文御渡被成候付、此方(百九十七)も去暮御渡可被成年賦金舟ウシ(百九十七)両之請取書久次郎印形ニ而差出、引替相済申候付、右之趣京都店江本状并別紙ヲ以も及通達候

正月十四日天氣 金サシカ、ツサ入 星セマ入

但余寒強

錢ウ、カ入マツ匣
肥後米休日

一明後十六日渡御為替為伺文次郎罷出候処、三組江サシメ、御渡可被成旨被仰渡候付、則割合書後明書付等、且蠟月十八日、廿六日江戸上納相済候御納札共御月番江差上、御書替上田組江持帰り申候

一当地町廻り同心目付木村久左衛門殿、野口国藏殿江被仰付候之段、西下宿シモ廻文ヲ以為相知申候

一小田切様御妾(三三)服ニ御女子様御出生被遊候付、主中様方より御着代金マ舟疋先格之通御差上被遊候段申来、披露状今日致到着候

付、則右目錄拵御屋敷久次郎持参、塚田嘉左衛門殿江懸御目

差上候処、京都江宜為申登呉候様御挨拶被仰聞候

一清水藤兵衛葬式今日於梅田相宮候付、孫七郎、久次郎罷越ス
一今朝常之通、昼汁花鑑豊饗、焼物花鑑丹後、酒出ス 肴なし

正月十五日天氣 諸相庭共休日

一今朝御礼文次郎罷出候、且明日渡御為替証文同人持参差上、御書替上田組江持帰り候、右之節去ル十二月廿六日上納御納札少々墨付有之候付、先格振合ヲ以文次郎印形断書相認差上申候
一今朝かゆ小豆、昼汁おとし大根、平鯉、酒出ス 肴組重
但別段焼物生かはせれい、是者今日代参宮廻リニ付兼帯 夜酒出ル
肴長はせいも、肴小車

正月十六日天氣 諸相庭共休日

一今日御為替銀為請取文次郎罷出左之通
一銀セシマメ、手前 一銀セシイメサ舟、十人組
一銀セシマメ、 一銀サメサ舟、上田組
一銀サシメ、内小玉(十貫目)、上納四月十八日

右之通無故障請取候付、例之通為御届夫々相廻ル、尤去ル十二月十八日、廿六日江戸上納相済候御納札引替も相済申候
一今朝常之通 昼餼わか木、汁な 平申いりこ、酒出ス 肴なし
一山中半兵衛京都年札相勤八幡江参詣、今暮時帰坂ス

正月十七日曇天 金サシカゝツ入サ厘 昼セマ入

但夜中雨降 貳朱打セマシゝ位
錢ウゝカ入イセ厘
肥後米舟シゝセ入

一字野十右衛門今夕舟ニ致帰郷候由ニ而、為暇乞入来ス

一今日七ツ時御靈宮於神前御弓と申式有之候

正月十八日雨降

金サシカゝツサ入 昼セ入
貳朱打シサゝセシサゝ位
錢ウゝツ入セ厘
肥後米舟シゝセカ入

一明後廿日本店椀飯四ツ時罷越候様、深井ゝ竹内迄連名宛口上手

紙到来ス

一本店名代役清水藤兵衛死去ニ付、臆中見舞後家民宛ニ而左之通

一 香典金子舟疋 (五匁二分) 店ゝ
一 葛椎茸商品一重 代サセ入

一 饅頭百 但虎屋切手 代サ舟セシ文 深井、山中、杉本ゝ

右之通差送り候、尤去ル辰正月本店勘定名代早野平右衛門死去

之節金野舟疋、葛椎茸一重差送り候処、去々巳十一月爰元店勘

定名代中井嘉平次死去之節、本店ゝ金舟疋、葛椎茸一重致到来

候付、右兩人御役ゝ次座ニ付早野ゝ相減、右之通差送り候事

一京店出入定七若山江御使ニ罷下、今朝着、即刻若山江罷越ス

一京都店ゝ無番状到着、松野安次郎儀旧冬病氣罷在早春々度々

急症差出全体虚勞之症ニ而甚六ヶ敷、療養色々尽手候得共、無

其甲斐去ル十一日曉子刻終致死去候段申来り候、則戒名左之通

法空淨説信士 行年三十五才 日取九日也
中陰十日也

右之通ニ付松野次郎兵衛江梅状一通、京都店江一通為差登申候、

尤年始旁差支有之候付、昨十八日ゝ致披露候由申来ル、依之右

之趣本店并家督退役并新田江も為相知遣ス

正月十九日天氣

金サシカゝイセ入 昼セ入
貳朱打シサゝセシサゝ位
錢ウゝツ入ウ厘サ入
肥後米舟シサゝ也

一松野安次郎死去ニ付本店武右衛門為挨拶罷越ス

正月廿日天氣

金サシサゝウ入カゝ 昼サゝカエ入
貳朱打シサゝセシサゝ位
錢ウゝツ入マツ厘
肥後來休日

一今曉七ツ時前玉造之東本庄村出火有之、無程相鎮ル

一本店椀飯江孫七郎、半兵衛、久次郎、文次郎罷越、喜三郎儀不

快ニ付不参、料理繪大根(ふりこ)せりうか 汁椎茸(ふくの皮) 平(くわい)すくい玉子

焼物(生鰯) 酒台引飯(蛸) 二したし物 三吸物(白魚)

取肴(若茸)はしかみ
蒲鉾(海老) 玉子(かのぼ)

一京店ゝ本状到来、両御役所御入用銀(二十貫目)来ル廿三日当地御

金藏ゝ御請取被成候付、右御証文并写御添簡等出入吉兵衛、又

七持下り、無難着改請取、右兩人今夕舟ニ罷登ル

一江戸本店去ル十一日御寄会之上左之通

本店

一 堀三右衛門

右支配役被仰付候

是迄支配役進藤安兵衛

鈴木三郎兵衛此度願之通

御願望性銀等被仰渡候

向店

一 土田庄兵衛

右組頭役願之通御暇

望性銀等被仰渡候

芝口店

一 加藤五郎右衛門

右支配役願之通御暇

望性銀等被仰渡候

一 清水平五郎

右組頭役願之通御暇

望性銀等被仰渡候

右之通被仰渡候段元方御状致到着候、尤組頭役迄出入相記、役頭已下之役替者相記不申候事

役頭

藤原弥平次

一 和知幸助

大橋兵四郎

右三人組頭役被仰付候

付候

向店

一 伊藤源兵衛

右支配役被仰付候

芝口店

一 御子宇兵衛

右支配役被仰付候

芝口店

一 山路金助

右組頭役被仰付候

望性銀等被仰渡候

向店

野村藤吉

一 三宅十五郎

野田清六

右三人組頭役被仰付候

向店

一 新羅甚七

野村伊兵衛

右支配役願之通

御暇被仰付候、望性銀被仰渡候

芝口店

一 山路金助

右組頭役被仰付候

望性銀等被仰渡候

一 明後日御為替渡為伺久次郎罷出候処、三組江サシメ、御渡被下候筈、依之割合書後明書并京都兩御役所御請取銀セシメ、之御証文写等御月番江差上申候

一 京都元方御状着、一昨十九日日本店節御祝儀之上左之通

一 藤田与三兵衛

一 小林三右衛門

一 丹羽彦三郎

右兩人組頭役被仰付候

右願之通御暇、望性銀等被仰渡候、尤惣兵衛儀は熊谷仁右衛門養子願之通被仰渡候

右之通被仰付候段申来り候、尤上ノ店、紅店役替も有之候得共

役頭已下之役替ニ付相記不申候事

一 御金方江此度御触被仰出候式朱判式拾五兩差交之儀通用之儀、此間十人兩替御触之通り御届申上候付、今日手前十人組も同様御触書之趣御届申上置候

一 伊勢代參林庄助無故障相勤、今夕四ツ時無難致帰着候

一 明後廿三日如例年当店節相祝候付、本店当役并当店家督退役中江廻文ヲ以申遣ス、尤京本店中塚徳次郎此節在坂ニ付、支配人別段手紙ニ而申遣ス、且新田江も手紙遣

一 当町油屋彦三郎入口東之方ニ有之候番小屋屋根之上江、夜前出生後五十日計も相立候女子致捨子候付、右之段早速御届申上候

由

正月廿一日天氣

金サシサ、サカ入 星セマ入
式朱打シサ、セシサ、位
錢ウ、ツ入サエ厘
肥後米舟シマ、チ入

錢ウ、ツ入サエ厘
肥後米舟シマ、チ入

正月廿二日天気

金サシサ、マツ入 昼セマ入
式朱打シサ、セシサ、位
錢ウツ入サカ厘
肥後米舟シセ、エ入

一 明日渡り御為替証文并京都御役所御請取銀御証文等今日久次郎持参御月番江差上、御書替手前江持帰り候

一 京店出入甚兵衛夜前若山、罷帰り、則今昼舟ニ罷登ル

一 京本店中塚徳次郎御用向有之、今夕舟ニ罷登り候旨為暇乞入来

二 付、当店がも為挨拶文次郎罷越ス

一 節聞酒吸物蛤、取肴蒲鉾玉子ふの焼 鉢つき 直ニ夜食堂之通
吹田くわい

正月廿三日天気

金サシサ、イセ入 昼サ、イ入
式朱打シサ、イセ入、位
錢ウツ入、イ厘
肥後米舟シ、イカ入

一 今日御為替銀并京御役所御入用銀為請取、久次郎罷出左之通

(二十三貫目)

一 銀セシマ、手前

一 銀セシイメサ舟、十人組

(五十貫目)

一 銀サシメ、内シメ、小玉銀

一 銀サメサ舟、上田組

一 右之外京都両御役所御入用銀、上納四月廿六日

右之通無故障請取候付、例之通為御届夫々相廻り申候

一 節料理繪生子大根

汁始めよめな

平鶏ねぎ

焼物生鰯付よき

台引はせかため

二した

し物 三吸物へき貝ふきのうとう

取肴飯蛸椎茸

夜食

汁口塩昆布

平鰯豆腐 引赤菜 其外昼残物取肴 吸物白魚 但座敷ニ而家督退役店惣中初元迄

正月廿四日曇天

金サシサ、イセ入 昼サ、イ入
式朱打シサ、イセ入、位
錢ウツ入、イ厘
肥後米舟ウ、エ入

折々雨降

一 伏見町加賀屋次右衛門方相続人相極り、近日御番所江も御届申上候由、夫ニ付此方江取置候家質滞利銀之内江此節正銀少々御渡申候ハ、出訴之儀暫御見合可被下哉、何れニも居宅之方者持續ケ申積リニ御座候、抱屋敷之儀も右之通暫見合候ハ、望人可有之哉と存候付、御頼申候段、右町内町代申来り候付、右滞利銀不残此節正銀請取、右家屋敷売レ候迄之所、町請負ニ相改り候ハ、出訴之儀見合可申段及返答候処、中々其儀は致出来申間敷旨申之罷帰リ候

正月廿五日天気

金サシサ、イセ入 昼ツ、エチ入
式朱打シサ、イセ入、位
錢ウツ入、イ厘
肥後米休日

一 次郎右衛門様御儀御不快ニ付、当地御屋敷方江年始御礼御下向不被遊候付、今日御名代ヲ以御両殿江定式之通御扇子十本入一箱交肴一折宛久次郎持参差上、御家中方并御金方、同手代業、天満与力衆へも定式扇子差送り候分も久次郎持参、御名代相勤候

一今日道明寺江林庄助代参ス

一柘植長門守様撰州吹田御知行所御役人太田官次殿入来、江戸御屋敷江金七拾貳両御下被成度旨ニ而御持参被成候処、右金子不殘切金ニ付御対談之上正金下シ致候積り、同人封印為致、右封之儘差下申候、尤下し賃八匁六分請取申積り及対談候

正月廿六日天氣

金サシツ、ウ入サ厘サ、屋ツ、エチ入
式朱打シサ、セシサ、位
錢ウ、セ入サカ厘
肥後米舟ウ、イ入

一今日当店日待相勤、朝常之通、昼茶食 酒出ス 肴赤菜 煮醬

汁白豆腐 天王寺かふら 平人參 小いも 午房 ぐわい

正月廿七日天氣

金サシツ、エチ入 屋ツ、ツサ入
式朱打シサ、セシサ、位
錢ウ、イ入サチ厘
肥後米舟シセ、也

暖氣之方

(二百貫目)

一上田方、大川町、淀屋橋角、抱屋敷引当、下地御印セ舟、取組有之候得共、此度は舟サシメ、ニても不苦候間、何卒取組呉候様田中嘉七と申手代申来り候付、今夕京都店江本状、及相談候

正月廿八日天氣

金サシツ、セマ入 屋ツ、サ厘
式朱打シサ、セシサ、位
錢ウ、サ厘
肥後米休日

彼岸入

一伏見町加賀屋次右衛門死跡又吉儀次右衛門と改名致相統候付、

先達而及出訴候家質滞之儀、次右衛門死去ニ付御引上ニ相成有之候処、此節下济致度旨、当時年寄加賀屋彦作方、色々頼筋申聞候付、追々及懸合無廻趣ニも有之候付、是迄滞利足正銀相渡候ハ、当次右衛門証文ニ相改、出訴之儀見合可申段申遣シ候処、右之儀も出来不申候由申聞候付、不得止事伏見町申合候上罷出候、尤次右衛門跡名前相極候付、猶又济方之儀御頼可申上候之間、此段被為聞召置被下候様今日書付相認、喜三郎代庄助西御役所江罷出御日限方江差上候処、御掛り安井大助殿御請取被成伏見町加賀屋次右衛門代御呼出、右元利滞銀高相違無之哉と御糺之上、右家質滞先達而御日限被仰付候内、次右衛門死去ニ付一旦御引上ニ相成候得共、最早改相願候ニ不及申候、今日、百五十日切元利共相济可申旨被仰渡、則双方印形御取被成候、尤当月御番者東御役所ニ候得共、先達而御引上ケニ相成候者西御役所ニ付、今日も西御役所江罷出ル事、且右之通御届申上相济候趣、当町会所へも申達置候、右御日限来ル六月廿八日ニ相当ル

一阿波屋伊兵衛名前ニ而取置候家質滞之方右同様ニ付、今日東御役所江阿波伊手代藤兵衛罷出、御届申上候処、御掛り小泉松次郎殿御請取、是者先達而相願候之処、無程次右衛門死去ニ付御引上ケニ相成、未対決不相济候間、来月二日改相願候様今日之届書ニ書入可申旨被仰渡候付、則来月二日奉願上度候間、此段

被為關召置被下候様相認差上相済申候、尤兩様届書御用留ニ記略之ス

一新田利平次入来、同所畑肥シ之儀、半兵衛、喜三郎談ス

正月廿九日曇天

金サシツ、ウイ入 昼マ、ウ入、ウツ、
式朱打シサ、セシサ、位

折々雨降

錢チ、ウ入、マサ厘
肥後米舟シツ、也

一橋井利右衛門病氣ニ付、為年礼手代定七と申者出坂、当店糞酒

一樽別宅并支配人迄為年玉豊心丹一包宛持参入来

正月晦日雨降

金サシツ、ウイセ入 昼ツ、ウイ入
式朱打シサ、セシサ、位

星時前々折々晴

錢チ、ウ入、サエ厘
肥後米舟シツ、ウツ入

一上田方取組筋之儀ニ付久次郎が田中嘉七呼遣、御印ニ而町内年
春奥印大川町抱屋敷引当ニ而銀高舟サシメ、歩ウ朱、尤右舟サ
シメ、之内家質取組之方引当不足ニ付、マシメ、ハ右家質之方
江内済被致候ハ、此度舟サシメ、取組可申旨及対談候処、先
以御取組之儀御承知被下、忝奉存候、乍然右歩合之儀、ウ朱ニ而
者私方引当ニ合不申迷惑奉存候、御存之通薩州御屋敷杯者エ朱
高歩者御借り無御座候、左候時者余程之入足ニ相成難洪奉存
候、下地御印御取組之通エ朱被成下度候、其儀難相成候ハ、サ
通り位之儀は如何様ニも可仕哉、猶罷帰リ三郎左衛門并同役共

へも申聞、自是御返答可申段申之罷帰り候

二月朔日天氣庚子

余寒強風立

金サシツ、ウツサ入 昼ツ、ウイ入
式朱打シサ、セシサ、位
錢ウ、ウイ入、マサ厘
肥後米休日

一今朝御礼久次郎罷出相勤申候

一当月御月番佐野備後守様、御金方酒井与左衛門様、下シ番手前

ニ而相勤候

一今朝繪花盞 汁常之通 平午房小いも

夜酒肴小帖 吹田くわい
肥後米舟シツ、ウツ入

夜酒肴小帖 吹田くわい

一新田弥右衛門入来、下百姓救錢之儀ニ付半兵衛、喜三郎江相談

ス

二月二日天氣

余寒強

金サシツ、ウツサ入 昼ツ、ウイ入
式朱打シサ、セシサ、位
錢ウ、ウイ入、マサ厘
肥後米舟シツ、ウツ入

一九郎右衛門様御儀御年齢并御千勢様御儀御本卦ニ付、今般御二

方様共御剃髮御改名左之通

宗救様 寿珉様

一新町源右衛門様御方江竹屋町御式様旧冬御入家御内御婚禮御整
被遊、此節右御弘メ御両家様共御整被遊候

一宗龍様御儀当年御初老ニ付、右御祝儀御祝被遊候

右之通候間、宗救様、伝藏様宛一通、源右衛門様、元之助様、宗龍様江者格状右之通御悅状為差登可申段、別紙通達有之候付、則今夕右之通相認為差登申候

一二条御藏御入用金九拾四兩皆式朱判ニ而來ル五日当地御金藏御請取被成候付、窪田官左衛門殿罷下請取被申候上、例之通為替ニ致呉候様御頼ニ付、則御三判証文卷通本状ヲ登リ申候事

一先月廿八日御届申上置候伏見町加賀屋次右衛門家質貸、阿波屋伊兵衛名前之方今二日御願申上候答ニ候処、町内年寄加賀屋彦作方ヲ申越候は、右家質滞利足之分此節不残正銀相渡可申候間、已來之処右利足是迄ツマ入之所何卒ツマ入内ニ致シ呉候様、

左候ハ、此節証文引替可申段、伏見町町代又右衛門ヲ以段々相頼候付、ツマ入ニ致可遣旨及返答候処、是非ツマ入ニ致呉候様

再応相頼候付、不得止事、左候ハ、向後は節季每利足無滞相渡被申候ハ、右之通ツマ入可遣旨、猶又申遣、右之趣承知ニ付是迄滞利足銀イメチ舟セシエ、サ入今日正銀請取、証文引替

等相濟申候、依之右之趣書付相認、西御役所江差上候処、後訴杯無之哉と目安方御役人衆御尋ニ付、其儀は不奉存候得共、此間伏見町差上候書付ニ外掛り合、後訴等無御座段相認メ有之候旨申請罷在候と申上候処、左候ハ、是ニ而宜候間、差上置可申旨被仰渡候付、引取申候、尤右之通相濟候段東御番所へも御届申上、并伏見町会所へも相届置候事

一道明寺役人木戸与左衛門入來、京都丹波屋五郎左衛門江登せ銀

二百八十八匁
マ舟シチ、ツ厘為替相頼候付、則為替手形差出、銀子請取申候、且先年天満宮屋根替之節取替銀イメ、有之候処、昨午年迄ニ皆濟相成申候、其節追々被相渡候度々之請取書三通持參被致候付、銀イメ之本証文引替遣相濟申候

一橋本弥三郎請判相濟候付、今日出勤為致止宿候
一銅座人參座御手当金カ舟兩下し方御急キ候間、当月廿六日迄二江戸着之積り差下候様被仰聞候、尤兼而三十日切之積り申上

有之候得共、格別日限違候事ニても無之、且先達而柘植様為替金之儀御断申上候儀も有之旁此度は御請申上候、已來儀者三十日切ニ御心得被下候様得と申上置候

二月三日雨天

金サシツ、セマ入、昼同事
式朱打セシ、マシ、位
但星八ツ過、晴
錢ウ、チ厘、イ入
肥後米舟シツ、サ入

一明後五日渡り御為替為伺文次郎罷出候処、三組江舟サシメ、御渡被下候筈、則割合書後明書且当正月十八日上納相濟候御納札六通共御月番江差上、御書替十人組江持帰り申候

一今晚当店寄会相勤、例年之通平頭已下角前髮迄夫々年寝美申渡候、且又当正月宗巴様被仰出候而敬片敬之御式目惣中江為読聞、猶又夫々得と入割申聞せ候

二月四日天氣

金サシツ、セマ入、昼同事
貳朱打セシ、ハ、マシ、位
錢ウ、ツサ厘
肥後米舟シセ、サ入

一 明日渡り御為替証文次郎持參、御月番江差上、御書替八十人組江持帰り候

一 八郎右衛門様御儀、当地御屋敷方江為御年礼御下向之儀、御病氣今以御勝レ不被遊候付、御名代ヲ以相勤可申旨京都ヨ申来り候付、則今日御両殿并御家中方江文次郎定式之通扇子五本入一箱、御着代金サ、舟疋宛差上、御家老、御用人、御取次金、七疋疋宛、書簡方江金舟疋宛、右之通夫々持參差送り無故障相勤申候

一 昨夜寄会、料理汁焼豆腐、平若菜、酒出ル、肴赤菜、右之通ニ而役人之分座敷、已下台所也

一 中塚徳次郎御用向ニ付出坂之由ニ而入来、仍而支配人為挨拶參ル

一 新田利作為年礼今日入来、早春差支有之延引相成候旨断有之、依之例年之通酒差出ス、且又右之節先頃ヨ申立有之候下百姓救錢三十貫、新田役人江当秋收納迄貸シ遣候儀、將又木綿作前肥シ代銀取替遣候儀等京都ヨ承知之趣申来り候付、右之趣半兵衛、喜三郎ヨ猶又及対談候事

一 上田方取組之儀兎角歩合下地ニ朱之處、サ通リ上ニ朱サニ而致用捨具候様再応頼被申候得共、此方ヨハウ朱ヨ相減候儀難相成候得共、再応無扱被仰聞儀ニ付、左候ハ、チ朱サニ致可申旨

及返答候処、何分其上相減、銀高之處百七貫目、取組具候様此間ヨ再三引合申候儀ニ候、依之段々押合銀高相増申候儀勿論望無之候、歩合之所もチ朱サガまけ申儀迷惑存候得共、度々御出無

余儀品合共被仰聞候付、致チ朱可遣、且銀高之儀相増候儀は望不申候付、家質内済三十貫目、引取可申処、セシメ、之内済ニ而此度者相済可申候間、猶又家質限月ニ至候ハ、其節又々内済有之候様及対談、漸致納得候、依之弥銀高舟サシメ、大川町抱

屋敷引当勿論年寄奥印取之、歩合者チ朱、且右銀高之内セシメ、引当不足家質之方江引取、正銀舟マシメ、相渡候対談ニ而相済申候

二月五日天氣

金サシツ、ツ入、ハ、サ厘、昼マツ入
貳朱打マシサ、ハ、ツシサ、位
錢ウ、ツサ厘
肥後米舟シツ、ツ入
余塞強

一 今日御為替銀請取文次郎罷出左之通

一 銀カシワメ、手前 一 銀カシサメ、十人組
一 銀シカメ、上田組

一 銀舟サシメ、内セシメ、小玉 一 銀シカメ、上田組

右之通無故障請取候付、例之通為御届夫々相廻り申候、且正月十八日江戸上納相済候、御納札引替も無滞相済申候

一 二条御蔵御入用金ウシツ両皆式朱判ニ而、今日窪田官左衛門殿無故障御請取、御城於馬場直ニ手前江御渡被成候付、本状御通

達之通御三判御証文ヲ以引替請取申候、尤官左衛門殿御事右御用向相濟候付、今夕舟ニ罷登リ被申候、依之先格之通為餞別饅頭五十入一折差送り、猶又御旅宿為暇乞文次郎罷越候

一 笹屋久兵衛手代嘉助、今日店表江入来、文次郎江逢申度旨ニ候

処、他行ニ付久次郎及面談候処、今年御払米相減候付、手当致相違、銀子手操難出来難波致罷在候、勿論毎年八月、十二月ニ

者当地御金藏（百貫目）手当金（三十七）仙兩宛請取申候間、当八月迄之所銀高舟（百貫目）計用違異候様相頼申候付、時節柄払底之段取繕即答及断

候処、何分ニも致相談異候様申之候付、引当物等之儀相尋候処、廻舟ニても書入可申哉、勿論長々借用之積ニ而ハ無御座候、当

八月迄之御取替被下、八月ニ者御金藏ニ而請取候内直ニ御引取可被下候、右請取方相違無之段者大屋四郎兵衛様ニ而御聞合被

下候得者、能ク相分り申候旨申之、再応相頼申候付、猶又及内談、自是御答可申旨及返答置候

二月六日天氣

金サシツトツサ入

昼休

式朱打マツシ位
錢ヲウ入エテ厘
肥後米舟シツ也

一 孫七郎儀、昨年二月六日夕舟ニ爰元店江罷下り、丸一ヶ年ニ相成、且用向も有之候ニ付、今夕舟ニ上京ス、依之逗留中泊り番之儀当三日夕当店寄会之節半兵衛、久次郎江申談置候得共、猶又申談上京ス

一中塚徳次郎、孫七郎上京為暇乞入来、右之節九郎右衛門様、御千勢様為御養生西洞院御屋敷江御引移、於御同所先月廿七日右御兩所様御剃髮被遊候段承之候

人名補注

あ行

秋田善左衛門

秋田万兵衛

浅田弥助

油屋四郎兵衛

油屋甚七

油屋彦三郎

阿部能登守

阿部領左衛門

荒木伊右衛門

荒木伊兵衛

有馬中務大輔

阿波屋伊兵衛

阿波屋三郎右衛門

安東丈之助

飯島茂太夫

井川善助

井口庄太郎

沼田藩土岐家の大坂留守居役

大坂両替店元家督(秋田清兵衛跡)

菱屋新田支配人、天明六年二月弥右衛門と改名

高麗橋三丁目町人、月行事

(日々金銭相場月変わりニ帳付ニ参ル)

高麗橋三丁目、両替屋仲間

大坂城代、武州忍藩主阿部正殿

大坂東町奉行所与力

御為替十人組

伊勢屋呉服店

筑後久留米藩主有馬頼貴

大坂奈良屋町抱屋敷名前人、「本店暖簾内同様」

富島二丁目

大坂西町奉行所与力

忍藩阿部能登守用人

加賀藩蔵元

大坂両替店平手代、天明六年二二月上座役

井口孫兵衛

池田屋宇右衛門

池田屋嘉兵衛

池田屋三郎兵衛

石井彦四郎

石井ゆの

石井与三郎

和泉屋惣七

和泉屋六三郎

五十川源太郎

五十川清太郎

伊豆蔵五兵衛

伊豆蔵伝蔵

市川文蔵

一融

伊東虎三郎

井筒屋新七

井筒屋伊右衛門

伊東弥助

乾市右衛門

大坂両替店元方掛名代、天明六年九月没

平野町一丁目、大坂菓種問屋

内淡路町浜、大坂菓種問屋

内淡路町浜、大坂菓種問屋

大坂両替店手代、賄方、石井彦五郎子

大坂両替店支配退役石井彦五郎後家

大坂両替店子供、一二月七日半元服

淡路町一丁目、大坂菓種問屋

道修町一丁目、大坂菓種問屋

両替商平野屋又兵衛子

京両替店名代

京都呉服問屋

大坂呉服問屋、高麗橋二丁目

大坂本店手代、天明六年二月上座役松坂北

三井家三代高路、天明六年一月宗融と改名

日向飢肥藩主伊東祐肅(のち祐鐘)

尼崎町并池北江入町井筒屋平次郎借家

京都二条、菓種仲間

京間之町店組頭、天明六年二月支配格

京両替店組頭、定次郎を改め、天明六年二月一七日支配格

井上伊織

田沼主殿家老

井上三郎兵衛

大坂両替店元支配役より天明元年三月京兩

替店に転じ、同年一二月退職、井上十五郎事

今井与三右衛門

大和屋与三右衛門、天満組惣年寄、大坂質

屋年寄

岩田屋伝兵衛

上町旅宿

上島太郎兵衛

京本店名代、天明六年一二月三日七郎兵衛

と改名

上田三郎左衛門

御為替御用達、上中之島町

宇野政七郎

天明六年一〇月死去

宇野藤五郎

大坂両替店平手代、天明六年六月暇

卯兵衛

大坂両替店手代

越後屋安次郎

大坂両替店出入

江戸屋源右衛門

↓松野安次郎

江原九郎右衛門

江戸飛脚、平野町一丁目

近江屋忠兵衛

大坂御金奉行仮役

太田官次

津村東之町俵屋九兵衛借家

太田檢校

柘植長門守摂州吹田知行所役人

大津屋九兵衛

笠間藩牧野家關係

大津屋新助

阿波座阿波町、両替・材木屋
思案橋西詰居住

大戸源内

笠間藩牧野家家中

大屋四郎兵衛

代官

岡 孫右衛門

忍藩阿部家の勘定奉行

岡田喜三郎

大坂両替店支配役

岡田金兵衛

兩國町

岡田彦次郎

大坂両替店支配格、天明二年一二月退役、同日より雇勤

小川八助

小野田三井家四代孝微

御喜勢

松坂北三井家宗十郎妹、堀木勝富と離縁後、

沖村忠右衛門

天明六年二月一六日松坂竹井東藏に嫁ぐ

御倉

大坂御金奉行付同心

奥田吉太郎

南三井家高邦女、小野田三井家四代孝微室

奥平富之進

大坂本店組頭役、天明六年二月支配

奥村次右衛門

豊前中津藩主奥平昌高

貞山と改名

大坂本店元々役、天明六年一二月剃髪して

奥村文助

貞山と改名

奥村忠右衛門

天明六年一月二日奥村次右衛門と改名

御式

天明六年一月二日奥村次右衛門家督

御式

室町三井家高亮女、天明六年一月新町三

小田切土佐守

井家高雅室となる

落合權大夫

大坂東町奉行、小田切直年

伊勢山田の御師、三井家遠祖高安の次男元

御千勢

吉の養家にあたる

小野儀右衛門

松坂北三井家高豊女、長井三井家高陳室

へ出勤

小野藤次郎

小野藤次郎親、過書町住所引払、大坂本店

を兼ねる

小野平五郎

大坂両替店支配退役

小野田宗休

松坂北三井家高路女御喜勢の養父

小島久兵衛

天明六年二月一七日大坂本店支配役退役、

御酉ゆづり

大坂本店出店預り

新町三井家四代高典女、北三井家高清養女、
那波九郎左衛門祐利に嫁す

御善

伊皿子三井家三代高登女、天明六年一月

北三井家八郎右衛門高祐と離縁、同年一二
月一日里楚と改名

か行

加賀屋宇兵衛

加賀屋弥三右衛門別家

加賀屋九郎兵衛

伏見町

加賀屋次右衛門

伏見町、心齋橋

加賀屋四郎兵衛

伏見町、唐反物問屋

加賀屋仁兵衛

加賀屋弥三右衛門別家

加賀屋太助

加賀屋四郎兵衛手代

加賀屋彦作

伏見町の町年寄

加賀屋美さ

加賀屋弥三右衛門別家

加賀屋弥一郎

加賀屋弥三右衛門親

加賀屋与左衛門

道修町一丁目

加賀屋与左衛門

唐巻物反物問屋、長崎本商人、道修町一丁

鍵屋孫兵衛

淡路町二丁目、大坂菓種問屋

鍵屋弥兵衛

京都三条室町、菓種仲間

笠屋五郎兵衛

四郎兵衛町家守支配

加島屋安兵衛

浜方両替

嘉助

高麗橋三丁目会所下役

片桐石見守

大和小泉藩主片桐安貞

片山儀兵衛

大坂本店組頭役

勝浦恒右衛門

大坂東町奉行小田切土佐守用人カ

勝四郎

木村勝四郎、大坂両替店子供、佐々木左京

勝部丈右衛門

次男

勝部弥十郎

西町奉行所与力、天明六年一月罷役

加東藤助

西町奉行所与力

加藤遠江守

別家、京本店元ノ家督、高麗橋一丁目小間

加藤遠江守

物店、伊勢講行事

加藤遠江守

伊予大洲藩主加藤泰候

金房孫市 井口孫兵衛弟、江戸堀二丁目・麴町抱屋敷

家守

金次安太郎

御勘定組頭

金屋与右衛門

大坂南組惣年寄、金谷町

紙屋次兵衛

今橋二丁目カ

芋屋市右衛門

高麗橋三丁目町人、天明六年十一月没

芋屋喜兵衛

高麗橋三丁目町人

芋屋半兵衛

高麗橋三丁目町人

河方勘兵衛

西町奉行所与力

川崎屋清兵衛

思案橋西詰大津屋新助方南隣

河内屋辰三郎

(米相場日々差し越)、今治御屋敷世話人

河内屋伝兵衛

勅修寺官御用達、白銀町

河内屋仁右衛門

平野町一丁目、大坂薬種問屋

川村伴右衛門

沼田藩土岐家家中

規矩文兵衛

天明六年二月一七日大坂本店支配役、四月

規矩利平次

一日暇、十一月一日別家中西とな方相続

岸本安次郎

菱屋新田支配人

喜十郎

別家、大坂両替店加判名代家督

吉兵衛

京両替店出入

吉川監物

京両替店出入男

木戸与左衛門

周防岩国藩主

道明寺役人

儀兵衛

大坂両替店出入

木村久左衛門

町廻り同心目付

京屋宗吉

(浜方諸色関合相頼)

京極能登守

讃岐丸亀藩主京極高中

九鬼長門守

摂津三田藩主九鬼隆張

具足屋

加州藩蔵元、具足屋庄右衛門

窪田官左衛門

二条御蔵方手代

葛山龜右衛門

西町奉行所与力

久米孫次郎

京両替店↓組頭本役

栗田唯右衛門

天明六年六月沼田藩土岐家退役

栗山惣兵衛

紀州藩御勝手方

九郎右衛門

長井三井家高陳、天明七年正月二七日剃髮

源右衛門

して宗教と号す

元之助

新町三井家五代高雅、高麗橋三丁目抱屋敷

小泉忠兵衛

名前人

小泉松次郎

室町三井家五代高郷

幸七

大坂東町奉行所与力

鴻池屋市兵衛

大坂東町奉行所与力

鴻池屋庄兵衛

大坂両替店出入

小坂源五右衛門

尼崎町二丁目

濱方両替、入替方五軒両替の一

沼田藩土岐家家中

深井孫七郎「大坂店勤番日記」

小寺武兵衛	加賀藩前田家家中
小堀様	京都代官、小堀邦直數馬、内平野町二丁目
米屋平右衛門	殿村氏、十人兩替の一人
近藤三右衛門	大坂本店組頭
さび行	
齋藤奎之丞	京都代官小堀手代
酒井屋与一	高麗橋三丁目町代
酒井屋与次兵衛	酒井屋与一実子、高麗橋三丁目町代跡役
肴屋七兵衛	堺表出入肴屋
藤兵衛	(右同)
酒井与左衛門	大坂御金奉行
桜井伝右衛門	大坂城代土岐美濃守用人
佐々木左京	讃岐琴比羅宮の御師カ
定七	京両替店出入カ
佐藤惣兵衛	御為替十人組惣代、高麗橋三丁目
佐野備後守	大坂西町奉行、佐野政親
三郎助	伊皿子三井家四代高年
三十郎	松坂三井家五代高行(松坂西村宗寿子息)、
榎奥右衛門	天明六年三月二七日則右衛門と改名
榎奥次郎	二条御藏方
	二条御藏手代

自空	家原三井家初代政俊
信濃屋弥右衛門	思案橋西詰大津屋新助方南隣
島村新兵衛	忍藩阿部能登守撰州陣屋
島本三郎九郎	京都両替商人
清水藤兵衛	大坂本店名代、天明七年一月一日没
淡明院	十代將軍徳川家治、天明六年九月八日没
次郎右衛門	南三井家五代高英、御為替御用名前
新藏	大坂両替店出入
新太郎	↓前田新太郎
甚兵衛	京両替店出入
杉浦大藏	笠間藩牧野家家中
杉浦兵左衛門	西町奉行所与力
杉浦素為	笠間藩牧野家家中杉浦大藏父、大坂毛利岩
杉本仙助	見守蔵屋敷留守居役
杉本久次郎	落合權太夫手代
	大坂両替店支配役、天明六年二月一六日通
	勤支配
杉山仙右衛門	江戸本店加判名代、天明六年三月元ノ役
炭屋五郎右衛門	瓦町一丁目、大坂両替商人
炭屋善五郎	大坂両替商人
炭安	炭屋安兵衛、十人兩替の一人
酢屋久左衛門	堺材木町、菓種屋仲間

清蔵様

家原三井家三代政昭

関六郎右衛門

尼崎藩松平遠江守用人

関口大助

忍藩阿部能登守摂州代官

宗義

室町三井家四代高行(長井高陳男)

宗教

長井三井家高陳、天明七年正月二七日剃髮して宗教と号す

宗恵

松坂南三井家三代高峙、天明六年一二月六日没

宗慶

南三井家二代高博

宗三

松坂南三井家二代高邁、明和六年七月歿

宗十郎

松坂北三井家高蔭

宗巴

伊皿子三井家三代高登

宗龍

新町三井家四代高典

則右衛門

松坂南三井家四代高岳、天明六年四月五日より同家五代高行に替る

則兵衛

天明六年四月五日より松坂家四代高岳が名乗る

外谷郷左衛門

尼崎松平遠江守用人

た行

紀州藩第八代藩主徳川重倫

太真

沼田藩・延岡藩・小倉藩名代、長州藩蔵元、

高池三郎兵衛

北浜二丁目

和歌山両替

高垣藤七

舟問屋、富島一丁目

高津屋幸七

松坂店名代跡、御喜勢嫁付先

竹井東蔵

医師 小野藤次郎病氣につき

竹内宗硯

大坂両替店組頭、天明六年二月一六日支配

竹内文次郎

役

田坂直右衛門

大坂西町奉行所与力

豊屋半右衛門

大坂両替店向角

伊達和泉守

伊予吉田藩主伊達村賢

田所忠七(のち彦右衛門)

江戸本店支配退役、天明六年三月一八日後見役にて再勤、同年十月一六日彦兵衛と改、

同閏十月九日彦右衛門と改名

京本店元方掛名代

田中嘉七

上田三郎左衛門手代

田中嘉七

笠間藩牧野家家中

谷 新左衛門

笠間藩牧野家家中

種村定右衛門

大坂本店組頭退役二代目田牧権右衛門跡

田牧市右衛門

大坂両替店子供

玉村熊次郎

京都

丹波屋五郎左衛門

平上座

千葉善次郎

家原三井家清蔵の在京中の名乗り

長五郎

長次郎

南三井家四代高業、天明四年家原三井家に

入家し次郎右衛門を長次郎と改める

小田切土佐守家中

塚田嘉左衛門

笠間藩牧野家家中

津久井武兵衛

戸川鉄藏・遠藤備前守用達、道空町

柘植長門守

拓植正寔、天明六年閏一〇月作事奉行から

勘定奉行へ役替

辻 友右衛門

道明寺役人

辻村忠右衛門

大坂御金奉行付同心

都筑忠兵衛

和歌山両替

津国屋十助

出入方

貞玉尼

西方寺

寺井瀬兵衛

京両替店支配役

寺尾善左衛門

大坂御金奉行仮役カ

天王寺屋利左衛門

(日々金銭相場帳付けに参る)

天満屋吉兵衛

大坂両替店出入方

藤兵衛

京両替店出入

戸川鉄藏

諱は遠邦、交代寄合表御礼衆、在所備中撫

川(五千石)

徳兵衛

大坂両替店下男頭

戸田因幡守

京都所司代、宇都宮藩主戸田忠寛

土岐老之助

沼田藩第六代藩主土岐定富 天明六年一〇

土岐美濃守

月就封

沼田藩第五代藩主土岐定経 天明六年九月

一〇日没

苫屋久兵衛

御米江戸下し方

鳥井丹波守

下野壬生藩主鳥井忠意

な行

内藤徳丸

越後村上藩主内藤信敦

中井嘉十郎

大坂両替店手代

中井敬順

嘉平次、大坂両替店勘定名代、天明五年一

一月死

永田兆十郎

西町奉行所与力

中塚徳次郎

京本店後見

中西庄右衛門

大坂本店名代

中西とな

別家、大坂両替店元メ家督

中村嘉助

糸店平頭、天明六年三月組頭内格

中村八郎左衛門

沼田藩土岐家大坂屋敷留守居役

奈良屋忠兵衛

道修町一丁目、菓種問屋

奈良屋藤兵衛

道修町一丁目、菓種問屋

成瀬九郎左衛門

西町奉行所与力、天明六年二月御役御免

成瀬正兵衛

西町奉行所与力

賛安芸守

賛正寿、堺奉行

西三省

西田新四郎

布屋弥兵衛

野口国藏

野崎新兵衛

は行

橋井利右衛門

八郎右衛門

八郎兵衛

服部平右衛門

林庄助

早野平右衛門

原田五左衛門

播磨屋宇兵衛

播磨屋仁兵衛

播磨屋忠次郎

春田半十郎

肥前屋七兵衛

日野屋代助

平井吉兵衛

平田弾右衛門

京都の医師、法眼

京両替店後見役

伏見

町廻り同心目付

別家、大坂両替店元家督

南都晒買宿

北三井家六代高祐

北三井家五代高清

西町奉行付与力

大坂両替店手代

京本店勘定名代

忍藩阿部家の勘定奉行

北野

堂島中二丁目、一橋家御用達

思案橋西詰大津屋新助方南隣

大坂御金奉行

富島町二丁目

道修町一丁目、薬種問屋

糸店組頭、二月一六日組頭

忍藩阿部能登守在坂家老

平野屋嘉十郎

平野屋佐兵衛

平野屋半兵衛

平野屋又兵衛

広岡伊兵次

深井助九郎

深尾音五郎

福島台右衛門

副田新助

福田丹藏

古森幸右衛門

伏見屋太兵衛

平三郎

細野平十郎

ま行

前川多十郎

前田新太郎

牧野越中守

牧野平左衛門

四軒町、宇都宮藩御用達

平野町一丁目、薬種問屋

本鞆町、薬種問屋

大坂両替商、仙台藩名代、長堀富田屋町

京両替店支配格

京両替店手代

佐々木佐京親類の子供、天明六年十一月二

日大坂両替店出勤

大坂西町奉行佐野備後守用人

間之町店平頭、三月組頭内格

別家、大坂本店元家督

役頭↓組頭

大坂瓦町二丁目、大坂薬種問屋

↓宇野平三郎

島本三郎九郎手代

天明六年二月十六日京両替店支配退役、同

月廿日死

大坂両替店手代

常州笠間藩主、牧野貞長

東町奉行所与力

深井孫七郎「大坂店勤番日記」

又右衛門	伏見町町代
又兵衛	大坂両替店出入
松井官左衛門	大坂西町奉行所与力
松島太助	江戸向店元、天明六年二月一九日林右衛門と改名
松平安芸守	広島藩主浅野重晟
松平阿波守	徳島藩主蜂須賀治昭
松平和泉守	三河西尾藩松平乗完
松平内蔵頭	岡山藩主池田治政
松平相模守	鳥取藩主松平治道
松平薩摩守	薩摩藩主島津重豪
松平周防守	石州浜田藩主松平康福
松平大膳太夫	長州藩主毛利治親
松平出羽守	雲州松江藩主越前治卿
松平遠江守	摂津尼崎藩主松平忠告
松平土佐守	土佐藩主山内豊雍
松平主殿頭	肥前島原藩主松平忠恕
松野安次郎	京両替店組頭、二月一七日支配役
松野	別家、松野次郎兵衛、京両替店大元の家督、
松本伊豆守	京都川原町四条上ル町、質商売
丸山弥兵衛	勘定吟味役、天明六年一月一五日免職
	京両替店元、役

三浦藤左衛門	大坂御金方(御金奉行仮役力)
水谷武右衛門	上田三郎左衛門名代
水野出羽守	駿州沼津藩主水野忠友
溝口龜次郎	越後新発田藩主溝口直侯
三宅十郎右衛門	大坂西町奉行所与力
三宅四郎右衛門	大坂東町奉行所同心
三好門兵衛	別家、大坂両替店支配退役
三輪市十郎様	二条御殿番
向崎吉郎兵衛	京本店元、
村井新左衛門	別家三代目村井新十郎改
村井新三郎	村井新左衛門養子
村井新十郎	別家、本店加判名代家督四代目、高麗橋一丁目、糸見世
村田寿右衛門	忍藩阿部能登守摂州陣屋(万太夫養子)
村田権左衛門	阿部家中
村田惣右衛門	大坂御金奉行同心
村田万大夫	阿部能登守用人
村山勘助	平上座役
茂手木平兵衛	笠間藩家中
本川九十九	大坂東町奉行小田切土佐守家中力
元五郎	小石川三井家高経
森権兵衛	和歌山両替

森繁平

大坂西町奉行佐野備後守家老

や行

弥助

新田支配人

安井新十郎

西町奉行所与力

安井大助

西町奉行所与力

矢野庄次郎

大坂両替店組頭

山川太右衛門

京間之町店勘定名代、天明六年二月六日

伊右衛門と改名

大和屋次兵衛

天満又次郎町

大和屋友四郎

水谷武右衛門名跡

大和屋弥兵衛

本鞆町、大坂薬種問屋

山中半兵衛

大坂両替店後見役

由比甚右衛門

西町奉行所与力

吉田勝右衛門

西町奉行所与力

吉田喜平次

摂州呉田

吉野勝之助

大坂御金奉行付同心

ら行

利作

菱屋新田

利兵衛

出入

利平次

↓規矩利平次

わ行

若林市左衛門

御勘定組頭

若狭庄兵衛

大坂両替店書札方、天明六年二月出奔

和勢屋新兵衛

大坂両替店出入方

渡辺九藏

笠間藩牧野家家中

和勢屋仁兵衛

大坂両替店出入

渡辺庄左衛門

土岐家大坂屋敷留主居役

渡辺新三郎

元大坂本店通勤支配退役渡辺新右衛門跡

渡辺甚兵衛

(二三好又次郎)元大坂両替店より京両替店に転じ、支配退役

人名補注参考資料(主なもの)

「日用帳」(三井文庫所蔵史料 本二五三)

「永用帳」(三井文庫所蔵史料 本一一一九)

『寛政重修諸家譜』

『大武鑑』(天明四年)

『校本難波丸綱目』

「大坂武鑑」(天明元年)

『大阪市史』

深井孫七郎「大坂店勤番日記」

附表 1 天明6年2月7日~天明6年7月28日
大坂金・銭・米相場表

月 日	金(1兩二付)		金(昼) (1兩二付)		銭 (1貫文二付)		肥後米 (1石二付)	
	匁	匁	匁	匁	匁	匁	匁	匁
2・7	55.71		55.75		9.23		58.2	
2・8	55.75		休		9.29		休	
2・9	55.71		55.70		9.27~ .28		58.5	
2・10	55.71		55.75		9.27		58.5	
2・11	55.77		55.75		9.29		58.4	
2・12	55.85		55.95		9.26~ .27		59.1	
2・13	55.93		55.88		9.27~ .28		58.8	
2・14	55.92		55.85		9.28		57.9	
2・15	55.83~ .84		55.85		9.26~ .27		休	
2・16	55.93		55.93		9.28		休 程繁二付	
2・17	55.96~ .97		55.95		9.28~ .29		57.5	〃
2・18	56.02~ .03		56.10		9.24~ .25		休	
2・19	55.94~ .95		55.85		9.26		57.8	
2・20	55.95		55.90		9.27		57.2	
2・21	55.78				9.28~ .29		休	
2・22	55.69				9.28~ .29		休	
2・23	55.63~ .64		55.63~ .64		9.25~ .26		57.7	
2・24	55.63~ .64		55.65		9.28		57.8	
2・25	55.62~ .63		55.61		9.29		57.9	
2・26	55.41		55.35		9.25~ .26		57.7	
2・27	55.25~ .26				9.25~ .26		休	
2・28	54.95		54.70		9.22		休	
2・29	54.90				9.22~ .23		休	
2・晦	54.84~ 85		54.52		9.23~ .24		休	
3・1	54.90~55.00				9.18~ .20		休	
3・2	55.15~ .17				9.15~ .20		休	
3・3	(休)		(休)		休		休	
3・4	55.00~ .02		54.95		9.10~ .11		休	
3・5	54.85~ .88		54.70		9.78		59.7	
3・6	54.45~ .50		休		9.00		休	
3・7	53.55		53.30		8.95~ .97		57.0	
3・8	53.20		52.30		8.95		57.0	
3・9	50.99~51.00				8.88~ .89		57.0	
3・10	53.70		53.00		9.03~ .04		57.5	
3・11	53.30				8.80		57.2	

	金(1兩二付)	金(昼) (1兩二付)	錢 (1貫文二付)	肥後米 (1石二付)
3・12	51.50~52.00	52.00	8.92~.93	57.5
3・13	52.80~53.00	52.08	8.97~.98	57.3
3・14	52.70	52.70	8.93~.94	58.0
3・15	53.05~.10	53.05~.10	8.97~.98	58.2
3・16	52.90~53.00	53.01~.02	8.94~.95	休
3・17	53.10~.20	53.10~.20	8.96	58.5
3・18	53.40~.50	53.40	8.94~.95	59.2
3・19	53.40	53.70	8.97~.98	58.1
3・20	53.10	53.10	9.02	58.1
3・21	53.30	53.20	9.01	休
3・22	53.25	53.20	8.95	58.2
3・23	53.80~.90	53.70	9.02~.03	58.1
3・24	53.85	53.70	9.02~.03	57.9
3・25	53.65	53.65	8.98~.99	58.2
3・26	53.50	53.20	9.00	58.7
3・27	52.80~.90	52.50	9.00	58.2
3・28	52.30~.50	52.70	8.98~.99	58.1
3・29	53.30	53.30	9.00	57.9
4・1	53.00~.10	52.80~.90	8.95~.96	58.1
4・2	52.75~.80	52.80~.90	8.94~.95	58.2
4・3	53.10	53.20	8.94~.95	58.4
4・4	53.10~.20	53.20~.30	8.94~.95	59.0
4・5	53.60~.70	54.00	8.94~.95	58.2
4・6	53.90~54.00	休	8.94~.95	58.9
4・7	54.10~.20	54.10~.20	8.98~.99	58.7
4・8	54.10~.20	54.00	9.00	休
4・9	53.94		8.98~.99	58.6
4・10	53.80~.90		8.97~.98	
4・11	53.95~54.00		8.96~.97	58.1
4・12	54.20	54.20	8.97~.98	57.8
4・13	54.10~.20	54.10~.20	9.00~.01	57.8
4・14	54.15~.20	54.15~.20	8.98~.99	57.9
4・15	54.20	54.20	8.98~.99	57.6
4・16	54.40	54.40	8.96~.97	休
4・17	54.40~.50	54.45	9.00~.01	休
4・18	54.40	54.40	9.01~.02	57.8

深井孫七郎「大坂店勤番日記」

	金(1兩二付)	金(晝) (1兩二付)	錢 (1貫文二付)	肥後米 (1石二付)
4・19	54.05	54.10	9.01~ .02	58.0
4・20	54.20	54.30	9.00	57.4
4・21	54.35	54.40	9.00	57.4
4・22	54.25~ .30	54.25~ .30	9.01~ .02	57.4
4・23	54.05~ .10	54.30	9.01~ .02	57.6
4・24	54.12	54.10	9.02~ .03	57.3
4・25	54.04~ .10	54.04~ .10	9.00	56.4
4・26	54.15	54.25	8.98~ .99	57.1
4・27	54.20~ .25	54.20	9.01~ .02	57.1
4・28	54.10~ .15		9.00~ .01	57.1
4・29	54.15~ .20		9.00~ .01	休 節句前休
4・晦	54.00~ .10	54.10	9.01~ .02	休 "
5・1	54.05~ .10	54.05~ .10	9.04~ .05	休
5・2	53.89~ .90		9.07~ .08	休
5・3	53.89~ .90	53.90	9.05~ .08	休
5・4	54.00~ .05	54.05~ .10	8.95~9.00	休
5・5	休	休	休	休
5・6	54.10	休	8.90	休
5・7	54.10~ .20	54.05~ .10	8.86~ .87	(以下筑前米) 52.5
5・8	54.10~ .15	54.05	8.87~ .88	52.4
5・9	53.85~ .90	53.85~ .90	8.87~ .88	52.8
5・10	53.95~54.00	53.95~54.00	8.88~ .89	52.7
5・11	53.95~54.00	53.95~54.00	8.87~ .88	52.7
5・12	53.99~54.00	53.99~54.00	8.85~ .86	52.5
5・13	53.85	53.90~ .93	8.80~ .85	52.6
5・14	53.85~ .88	53.90	8.81~ .82	52.7
5・15	53.90~ .92	53.98	8.83~ .84	52.7
5・16	53.99~54.00	53.90	8.83	休
5・17	53.98~ .99	54.00	8.82~ .83	休
5・18	53.95~54.00	53.95~54.00	8.83~ .84	52.0
5・19	53.95	53.95	8.80~ .81	52.1
5・20	53.99~54.00	53.99~54.00	8.79~ .80	52.1
5・21	54.10~ .15	54.10~ .15	8.77~ .78	52.4
5・22	54.10~ .15	54.10~ .20	8.77~ .78	52.5
5・23	54.20~ .35	54.13	8.78~ .79	52.5
5・24	54.20~ .35	54.22	8.78~ .79	52.2

	金(1兩二付)	金(昼) (1兩二付)	錢 (1貫文二付)	筑前米 (1石二付)
	匁 匁	匁 匁	匁 匁	匁
5・25	54.25	54.25	8.81~.82	52.0
5・26	54.22~.23	54.22~.23	8.79~.80	52.0
5・27	54.18~.19	54.25	8.75	52.0
5・28	54.21	54.24~.25	8.76	休
5・29	54.25	54.25	8.78	51.8
6・1	54.25	54.25	8.79	休
6・2	54.23	54.24~.25	8.81	51.8
6・3	54.25~.26	54.25	8.80	51.8
6・4	54.23~.24	54.24~.25	8.79~.80	51.8
6・5	54.26	54.23	8.76~.77	52.0
6・6	54.27~.28		8.76~.77	51.8
6・7	54.26~.27	休	8.77~.78	休
6・8	54.28	54.35	8.77~.78	52.6
6・9	54.33~.34	54.33~.34	8.77~.78	52.4
6・10	54.35~.36	54.35~.36	8.81	52.5
6・11	54.36	54.36	8.79~.80	53.1
6・12	54.41~.42	54.41~.42	8.81~.82	53.3
6・13	54.46~.47	54.51~.52	8.85~.86	54.0
6・14	54.45~.48	54.45~.48	8.84	53.5
6・15	54.49~.50	54.48	8.82~.83	53.5
6・16	54.40~.42	54.40~.42	8.83~.84	休
6・17	54.47~.48	休	8.82~.83	休
6・18	54.38~.40	54.22~.23	8.82~.83	53.5
6・19	54.50~.52	54.54~.55	8.82	53.7
6・20	54.50	54.42~.43	8.81~.82	53.5
6・21	54.38~.40	休	8.78~.79	53.8
6・22	休	休	休	休
6・23	54.24~.25	54.24~.25	8.81~.82	54.7
6・24	54.30~.32	休	8.82~.83	休
6・25	休	休	休	休
6・26	⁽⁷⁷⁾ 58.40		8.83~.84	55.3
6・27	54.34	54.34	8.84~.85	55.8
6・28	54.35~.36	54.35~.36	8.84~.85	55.9
6・29	54.40~.42		8.86~.87	休
7・1	54.52		8.86	57.0
7・2	54.55~.57	54.48	8.85~.86	57.5~58.0

天神祭二付

深井孫七郎「大坂店勤番日記」

	金(1兩二付)	金(昼) (1兩二付)	錢 (1貫文二付)	筑前米 (1石二付)
7・3	54.53 <small>匁</small> ~ .55 <small>匁</small>	54.53 <small>匁</small> ~ .55 <small>匁</small>	8.84 <small>匁</small> ~ .85 <small>匁</small>	57.2 <small>匁</small>
7・4	54.65~ .70	54.53	8.87~ .88	56.7
7・5	54.58	54.63	8.89	57.2
7・6	54.75	休	8.89	58.1
7・7	54.85	55.50	8.91	休
7・8	55.10~ .15	55.40~ .50	8.88~ .89	休
7・9	56.50~ .60	57.10	8.89~ .90	休
7・10	56.30~ .50	56.30~ .50	8.94~ .95	休
7・11	56.20~ .40	56.20	8.97	休
7・12	55.80~ .90	56.10~ .20	8.96~ .97	休
7・13	55.95~56.00	56.10	8.93~ .95	休
7・14	56.30~ .40	56.40	8.93~ .95	休
7・15	休	休	休	休
7・16	休	休	休	休
7・17	56.00~ .10		8.75~ .76	56.8
7・18	56.20~ .25	56.20~ .25	8.78	58.5
7・19	56.05~ .10	56.05~ .10	8.78~ .79	休 庚申二付
7・20	56.10~ .20	56.10~ .20	8.78~ .79	休
7・21	56.05	56.05	8.78	51.1
7・22	56.05~ .10	56.05~ .10	8.76~ .77	50.1
7・23	56.05~ .10	56.05	8.80~ .81	59.7
7・24	56.15~ .20	56.15~ .20	8.81~ .82	休
7・25	56.45	56.40~ .50	8.86	53.9 <small>(▽▽)</small>
7・26	56.30	56.25	8.90	63.5
7・27	56.10~ .15	56.15~ .17	8.86~ .87	66.1
7・28	56.05~ .10		8.85~ .86	

出所)「大坂店勤番日記」(三井文庫所蔵史料 別 1571, 別 1572)。

附表 2 天明 6 年 11 月 1 日～天明 7 年 2 月 6 日
大坂金・錢・為替打銀・米相場表

月 日	金(1兩二付)		金(星) (1兩二付)		為替打銀	錢 (1貫文二付)		肥後米 (1石二付)
	匁	匁	匁	匁		匁	匁	
11・1	50.20	～ .30	50.30	～ .40	打100～120位	8.99		87.2
11・2	50.40	～ .50	50.60	～ .70	打 90～110 "	8.91		88.2
11・3	51.30	～ .50	51.30		打 90～110 "	8.95	～ .96	90.6
11・4	51.20	～ .30	51.30	～ .40	打100～120 "	8.91	～ .92	89.5
11・5	51.10	～ .30	51.80	～51.00	打 90～110 "	8.89	～ .90	89.0
11・6	50.90	～51.00	50.90	～51.00	打 90～110 "	8.89	～ .90	88.5
11・7	51.00	～ .10	51.80	～ .90	打 90～110 "	8.90	～ .91	87.8
11・8	50.70	～ .80	50.70	～ .80	打 90～110 "	8.92	～ .93	休
11・9	51.00	～ .05	51.80	～ 90	打 80～100 "	8.92	～ .93	88.2
11・10	51.10	～ .25	51.10	～ .25	打 80～100 "	8.93	～ .94	87.5
11・11	51.15	～ .20	51.10		打 70～ 90 "	8.93	～ .94	87.2
11・12	51.10	～ .20	51.05	～ .10	打 60～ 80 "	8.96	～ .97	86.6
11・13	51.10	～ .20	51.10	～ .20	打 30～ 50 "	8.93	～ .94	86.4
11・14	51.10	～ .20	51.30	～ .40	打 30～ 50 "	8.89	～ .90	85.8
11・15	51.50	～ .60	51.40	～ .50	打 25～ 45 "	8.93	～ .94	85.8
11・16	51.30	～ .40	51.30	～ .40	打 20～ 40 "	8.93	～ .94	休
11・17	50.90	～51.00	50.60	～ .70	打 90～110 "	8.89	～ .90	86.0
11・18	50.70	～ .90	50.70	～ .90	打100～120 "	8.91	～ .92	86.2
11・19	50.60	～ .80	50.30	～ .50	打 90～100 "	8.90		87.5
11・20	50.90	～51.00	50.90	～51.00	打100～120 "	8.93	～ .94	休
11・21	51.10		51.30	～ .50	打100～120 "	8.97		86.0
11・22	51.70	～ .80	51.50	～ .70	打 60～ 80 "	8.93	～ .94	87.0
11・23	51.00	～ .05	51.10	～ .20	打 40～ 60 "	8.92	～ .93	87.2
11・24	51.25		50.70	～ .80	打 60～ 80 "	8.93	～ .94	休
11・25	51.50		51.30	～ .50	打 60～ 80 "	8.95		88.0
11・26	51.50	～ .60	51.50	～ .60	打 50～ 70 "	8.95	～ .97	88.4
11・27	51.55		51.65		打 60～ 80 "	8.96	～ .97	休
11・28	52.00	～ .20	51.90	～52.00	打 60～ 80 "	9.00	～ .03	88.1
11・29	52.10	～ .20	52.50	～ .70	打 50～ 70 "	8.98	～9.00	89.2
12・1	53.20		53.50	～ .80	打 50～ 70 "	9.03		休
12・2	53.50	～ .70	54.50		打 30～ 50 "	9.02	～ .03	91.0
12・3	53.10	～ .20	53.10	～ .20	打 30～ 50 "	9.07	～ .08	91.4
12・4	53.20	～ .40	53.20	～ .40	打 30～ 50 "	9.09	～ .10	91.1
12・5	53.40	～ .60	53.80	～54.00	打 30～ 50 "	9.07	～ .08	91.0
12・6	53.80	～54.00	53.80	～54.00	打 20～ 40 "	9.10	～ .11	90.9

深井孫七郎「大坂店勤番日記」

	金(1兩二付)	金(昼) (1兩二付)	為替打銀	錢 (1貫文二付)	肥後米 (1石二付)
	匁 匁	匁 匁	匁 匁	匁 匁	匁
12・7	54.10~ .20	54.30~ .40	打 10~ 30位	9.12	91.0
12・8	54.40~ .06	53.90~54.00	打 10~ 20	9.17~ .18	91.6
12・9	54.10~ .20	54.20~ .30	打 10~ 20	9.25~ .27	92.2
12・10	54.50~ .60	54.40~ .50	打 10~ 30	9.29~ .30	94.1
12・11	55.00	55.80~ .90	打 10~ 30	9.43	94.0
12・12	56.80~57.30	57.30~ .50	打 20~ 40	9.50~ .60	93.9
12・13	57.30	56.80	打 10~ 20	9.65~ .70	休
12・14	56.10~ .30	55.90~56.00	無打 ~ 10	9.55	96.1
12・15	55.20~ .50	54.40~ .60	打 5~ 15	9.45~ .50	96.9
12・16	55.40~ .60	55.30~ .50	打 5~ 15	9.50~ .60	99.7
12・17	55.50~ .80	55.80~56.00	打 5~ 20	9.50~ .60	休
12・18	56.70~57.00	56.40~ .60	打 10~ 30	9.75~ .80	99.4
12・19	56.50~ .70	56.50~ .70	打 10~ 30	9.75	100.0
12・20	55.90~56.10		無打 ~ 10	9.60~ .70	100.0
12・21	56.20	56.20	無打 ~ 10	9.65	休
12・22	56.10	55.60~ .80	無打 ~ 10	9.61	100.5
12・23	55.00~ .10	55.10~ .30	無打 ~ 10	9.58~ .60	101.0
12・24	55.30~ .40	55.50~ .80	無打 ~ 10	9.58~ .60	101.4
12・25	55.60~ .80	56.00~ .20	無打 ~ 10	9.60~ .70	年内休
12・26	57.30~ .50	57.50~58.00	無打 ~ 10	9.80~ .85	年内休
12・27	56.80~57.00	57.20~ .40	打 10~ 20位	9.75~ .80	年内休
12・28	57.00~ .20	57.40~ .60	打 10~ 20位	9.80~ .85	年内休
12・29	57.00~ .20	57.10~ .20	打 20~ 30位	9.80~ .85	年内休
12・晦	57.00~ .20	57.00~ .20	打 15~ 25位	9.80~ .85	年内休
1・1	休	休	休	休	休
1・2	休	休	休	休	休
1・3	休	休	休	休	休
1・4	57.70~ .90	57.80	二朱打30~50	9.55~ .58	106.2
1・5	57.50~ .70	57.20~ .30	二朱打30~40	9.65	106.6
1・6	56.90~57.00	休	二朱打30~40	9.55~ .57	休
1・7	56.90	56.40~ .50	二朱打30~40	9.53	休
1・8	56.40~ .50	56.60~ .70	二朱打15~25	9.43	107.5
1・9	56.60~ .70	56.60~ .70	二朱打20~30	9.43	108.7
1・10	休	休	休	休	休
1・11	56.70~ .80	56.60~ .70	二朱打20~30	9.50~ .55	休
1・12	56.50~ .60		二朱打29~30	9.56~ .57	107.6

	金(1兩二付)	金(晝) (1兩二付)	為替打銀	錢 (1貫文二付)	肥後米 (1石二付)
1・13	56.40 <small>匁</small> ～.50 <small>匁</small>	56.30 <small>匁</small> ～.40 <small>匁</small>	二朱打20～30位	9.58 <small>匁</small> ～.60 <small>匁</small>	109.9 <small>匁</small>
1・14	56.40～.50	56.20～.30	二朱打15～25〃	9.63～.64	休
1・15	休	休	休	休	休
1・16	休	休	休	休	休
1・17	56.45	56.20～.30	二朱打20～30〃	9.61～.62	110.2
1・18	56.40～.50	56.20	二朱打15～25〃	9.52	112.6
1・19	56.10～.20	56.20	二朱打15～25〃	9.49～.50	115.0
1・20	55.90～56.00	55.60～.70	二朱打15～25〃	9.43～.44	休
1・21	55.50～.60	55.20～.30	二朱打15～25〃	9.45～.47	113.8
1・22	55.30～.40	55.20～.30	二朱打15～25〃	9.45～.46	112.7
1・23	55.10～.20	55.00～.10	二朱打15～25〃	9.40～.41	111.6
1・24	55.10～.20	55.00～.10	二朱打15～25〃	9.38～.39	109.7
1・25	55.00～.10	54.70～.80	二朱打15～25〃	9.32	休
1・26	54.95～55.00	54.70～.80	二朱打15～25〃	9.25～.26	109.1
1・27	54.70～.80	54.40～.50	二朱打15～25〃	9.15～.18	112.0
1・28	54.20～.30	54.00～.05	二朱打15～25〃	9.00～.05	休
1・29	54.00～.10	53.90～54.00	二朱打15～25〃	8.93～.95	114.0
1・晦	54.10～.20	54.10	二朱打15～25〃	8.95～.97	114.4
2・1	54.40～.50	54.00～.10	二朱打15～25〃	9.13～.15	休
2・2	54.50～.60	54.00～.10	二朱打15～25〃	9.20～.21	115.3
2・3	54.20～.30	54.20～.30	二朱打20～30〃	9.08～.10	114.5
2・4	54.20～.30	54.20～.30	二朱打20～30〃	9.04～.05	112.5
2・5	54.40～.45	54.30～.40	二朱打35～45〃	9.04～.05	114.4
2・6	54.40～.50	休	二朱打30～40〃	8.97～.98	114.0

出所)「大坂店勤番日記」(三井文庫所蔵史料 別 1572)。